平成 30 年度看護研究交流センター

活動報告書

平成 31 年 4 月

公立大学法人新潟県立看護大学
看護研究交流センター

巻頭言

看護研究交流センターは、大学と地域の交流の場として新潟県立看護大学に併設しています。大学における教育や研究の充実を図ること、それ自体が長期的観点からの大学の社会貢献であるという考え方があります。近年では、より直接的な貢献も求められるようになっており、こうした社会貢献の役割を、いわば大学の「第三の使命」としてとらえていくべき時代になっているものと考えます。看護研究交流センターは、この第三の使命を実現するための拠点となる施設です。本学の教育・研究の成果を地域へ還元することを目的とし、地域と大学が共に成長していくための橋渡しを担っています。

看護研究交流センターでは、平成 30 年度も 5 つの部門を置いて活動してきました。すなわち、先駆的学習支援部門、地域社会貢献部門、看護職学習支援部門、地域課題研究開発部門、特別研究部門の部門を中心に、本学の建学の精神である「ゆうゆう・くらしづくり」に基づき、それぞれの部門の活動を展開してきました。先駆的学習支援部門では「医療者のアタマの中で進めていること～臨床推論～」をテーマとした市民公開講座を開催しました。また、上越教育大学と連携した「長寿の秘訣！これならできるこころの養生法」についての公開講座を開催しました。地域社会貢献部門は、地域の医療者・大学と地域住民の交流会である「いきいきサロン」を今年度は 6 回開催しました。看護職学習支援部門は、県内の看護職・介護職者の学びの機会として、どこでもカレッジ公開講座を中心に活動してきました。地域課題研究開発部門は地域の保健・医療・福祉に携わる看護職者と大学教員との共同研究である地域課題研究を行い、発表会を開催しました。また、上越地域の看護研究の発表の場である上越地域看護研究発表会を同日に実施しました。特別研究部門は、地域における課題解決に向けた研究に取り組み、看護職の UI ターンに関するニーズ調査を中心に活動してきました。これらの活動内容については各部門の報告内容をお読みいただければと思います。さらに、平成 26 年度から始まり、大学から地域へ出向く「出前講座」は、本学教員の専門的知見や研究成果等を地域へ還元する地域貢献活動の一環として行う事業です。地域の皆様の生涯学習の機会としてお役立ていただけるよう、医療・福祉・健康等に関する様々なテーマを用意し、平成 30 年度も多くの依頼があり実施できました。

このように、センターとして様々な活動ができましたことで、地域の皆様との絆がより深まってきたと思われます。日頃のご支援に深く感謝しております。これからも地域の皆様からのご要望をもとに、看護研究交流センターの機能の充実を図り、5 つの部門を柱として活動していきたいと思います。今後もご支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

平成 31 年 3 月
新潟県立看護大学
看護研究交流センター長
水口陽子

平成 30 年度看護研究交流センター　活動報告書

目　次

Ⅰ．事業実施報告

事　業　概　要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

事　業　費 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

公開講座及び参加者数一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

事　業　広　報　活　動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

Ⅱ．部門報告

先駆的学習支援部門 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

地域社会貢献部門 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

看護職学習支援部門 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

地域課題研究開発部門 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30

特　別　研　究　部　門 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34

Ⅲ．事務局報告

出　前　講　座 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37

茶　話　会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43

Ⅳ．平成 30 年度地域課題研究助成の報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47

Ⅰ．事業実施報告

事　業　概　要

新潟県立看護大学では、大学と地域の交流の場として「看護研究交流センター」を平成 14 年 4 月に開設しました。

大学の建学の精神である「ゆうゆう・くらしづくり」に基づき、大学の教育・研究の成果を地域へ提供し、活動を通じて地域と大学が共に成長していくための橋渡しを担っています。

地域の皆様からの要望をもとに、5 つの部門の活動を柱にして、大学の教職員が情報を発信しています。

Ⅰ　目的

看護研究交流センターは、看護科学における教育と研究の成果を地域に還元し、県民及び保健医療福祉関係者に対する学術支援ならびに生涯学習・研修支援活動を通して、県内の保健・医療・福祉の向上に貢献することを目的としています。

Ⅱ　各部門の主な活動内容

1. **先駆的学習支援部門**【市民公開講座】【看護大・上教大連携公開講座】

医療分野の著名な知識人や、先駆的な取り組みを行っている実践者を招いた市民公開講座を開催している。また、上越教育大学との連携事業を担っている。

2. **地域社会貢献部門**【いきいきサロン】

地域の医療者・大学と地域住民の交流会であるいきいきサロンを開催し、地域住民への学習の機会を提供している。

3. **看護職学習支援部門**【どこでもカレッジ公開講座】【バーチャルカレッジ】

現職の看護師や潜在看護師のリカレント教育を推進する事業「どこでもカレッジプロジェクト」を主体に、県内の看護職及び介護職者への学び直しの機会を提供している。

4. **地域課題研究開発部門**

【地域課題研究公募】【地域課題研究発表会】【上越地域看護研究発表会】

県内の保健・医療・福祉に携わる看護職を対象に本学教員と共同で行う研究を公募し、その成果報告会となる地域課題研究発表会や、上越地域の看護研究の発表の場である上越地域看護研究発表会の開催(上越地域振興局健康福祉環境部と共催)を担っている。

5. **特別研究部門**

地域の課題を関係者と協働して政策的にまとめ、新潟県内の各地域が「健康・福祉のまち」として充実していくための事業を展開する。

行政や地域の関係諸機関と連携して、新潟県内における地域課題に対応した研究のテーマを検討している。

Ⅲ　事務局

【出前講座】

本学教員の研究成果を地域へ還元する地域貢献活動の一環として実施している。

【茶話会】

卒業生支援事業の一環として、卒後 1、2 年の卒業生を対象に開催している。

Ⅳ　平成 30 年度　看護研究交流センター構成員

区　分	氏　名	職　名
	センター長　　水　口　陽　子	基礎看護学教授
先駆的学習支援部門	部門長　　平　澤　則　子	地域看護学教授
	原　　等　　子	老年看護学准教授
	田　口　玲　子	精神看護学准教授
	大　口　洋　子	老年看護学助教
	山 岸 美 奈 子	基礎看護学助教
	大　倉　由　貴	老年看護学助教
地域社会貢献部門	部門長　　高 林 知 佳 子	地域看護学准教授
	川　野　英　子	地域看護学准教授
	川　島　良　子	基礎看護学助教
	天 谷 ま り 子	母性看護学助教
	安　達　寛　人	精神看護学助教
	伊 藤 ひ か る	精神看護学助手
	久 保 野 裕 子	地域看護学助手
	坂 田 智 佳 子	成人看護学助手
	室　　亜　　衣	小児看護学助手
	相　澤　達　也	成人看護学助手
	上　田　　恵	母性看護学助手
看護職学習支援部門	部門長　　岡　村　典　子	基礎看護学准教授
	小　池　　潤	老年看護学准教授
	小　林　綾　子	成人看護学講師
	髙　塚　麻　由	助産学助教
	谷 内 田 潤 子	基礎看護学助教
	野　澤　祥　子	小児看護学助教
	大　倉　由　貴	老年看護学助教
	東　條　紀　子	老年看護学助教
	相　澤　達　也	成人看護学助手

区　分	氏　名	職　名
地域課題研究開発部門	部門長　飯　吉　令　枝	地域看護学准教授
	石　田　和　子	成人看護学教授
	河 原 畑 尚 美	老年看護学准教授
	西　田　絵　美	母性看護学准教授
	北　村　千　章	小児看護学講師
	安　達　寛　人	精神看護学助教
特別研究部門	部門長　水　口　陽　子	基礎看護学教授
	岩 永 喜 久 子	看護管理学教授
	酒　井　禎　子	成人看護学准教授
	藤　田　　尚	社会科学准教授
	樺 澤 三 奈 子	成人看護学准教授
	水　沢　泰　正	事務局長

事　　業　　費

平成 30 年度予算配分額　4,826 千円

Ⅰ　各部門配分額　（単位：千円）

先駆的学習支援部門	269
地域社会貢献部門	186
看護職学習支援部門	1,251
地域課題研究開発部門	180
特別研究部門	489

Ⅱ　地域課題研究　（１．～７．研究代表者）

１．松矢 春奈 （新潟労災病院）	100
２．結城　真 (長岡赤十字病院)	72
３．小山 洋恵 （新潟県立中央病院）	100
４．髙橋 未来 （木戸病院）	100
５．松枝 杏奈 （上越総合病院）	100
６．細道 奈穂子 （新潟市医師会 在宅医療推進室）	100
７．その他 １件（30 年 7 月辞退）	95

Ⅲ　その他

事務局管理費	1,784
合計	4,826

平成30年度　看護研究交流センター公開講座参加者数

	日時	講座名	テーマ	参加者数
1	5月17日(木) 18:30～19:30	いきいきサロン	予防可能な認知症は予防しよう～今からでも間に合う予防活動～	169
2	5月19日(土) 13:00～16:00	どこでもカレッジ	看護研究のテーマをみつけよう	39
3	6月9日(土) 13:00～16:00	どこでもカレッジ	文献検索の基本～看護研究の論文を探す・入手する～	11
4	6月21日(木) 18:30～19:30	いきいきサロン	急がば回れの健康体操	125
5	6月23日(土) 13:00～16:00	どこでもカレッジ	さあはじめよう看護研究～研究計画書の書き方まで～	31
6	7月8日(日) 13:30～15:30	看護大・上教大 連携公開講座	長寿の秘訣！これならできるこころの養生法	139
7	7月19日(木) 18:30～19:30	いきいきサロン	「訪問看護」をご存知ですか	74
8	7月28日(土) 13:30～15:00	どこでもカレッジ	現場で活かす看護倫理	66
9	9月8日(火) 10:00～16:00	どこでもカレッジ	看護研究のための統計処理（統計ソフトSPSS・エクセルの紹介）	10
11	9月15日(土) 13:30～15:00	どこでもカレッジ	手塩にかける教育-人材育成につなぐOJTとリフレクションのコツ-	42
10	9月18日(火) 10:00～15:45	どこでもカレッジ	わかりやすいプレゼンテーションのやりかた	4
12	9月20日(木) 18:30～19:30	いきいきサロン	低栄養を学ぼう～これから始める予防法～	110
13	9月29日(土) 10:00～12:00	研究発表会	平成30年度 第9回 上越地域看護研究発表会 （上越地域振興局健康福祉環境部共催）	81
14	9月29日(土) 14:10～16:00		平成29年度 地域課題研究発表会	57
15	10月5日(金) 18:00～19:30	市民公開講座	医療者のアタマの中で進めていること～臨床推論～	156
16	10月6日(土) 10月7日(日) 10:00～16:00	どこでもカレッジ	患者の安全を高めるTeamSTEPPS(基礎編・充実編)	50
17	10月13日(土) 13:30～15:30	どこでもカレッジ	感染対策の基本～適切な実践のために～	29
18	10月18日(木) 18:30～19:30	いきいきサロン	生活習慣病について	108
19	10月20日(土) 13:00～15:00	どこでもカレッジ	高齢者のスキンケア～オムツ環境とスキンテアの対策～	46
20	11月15日(木) 18:30～19:30	いきいきサロン	『ストレス』と上手に付き合うには	137
21	11月24日(土) 13:00～16:00	どこでもカレッジ	呼吸のフィジカルアセスメント	44

いきいきサロン	**(6回)**	723
どこでもカレッジ公開講座	**(11回)**	372
市民公開講座	**(1回)**	156
看護大・上教大連携公開講座	**(1回)**	139
研究発表会	**(2回)**	138
合計	**(21回)**	1,528

事　業　広　報　活　動

Ⅰ　情報公開

情報公開についての活動は以下のとおりである。

1. 平成 29 年度看護研究交流センター活動報告書　：平成 30 年 4 月発行
2. 平成 30 年度看護研究交流センターご案内(リーフレット)　：　3,300 部
3. 平成 30 年度看護研究交流センター出前講座(パンフレット)：　1,400 部
4. 看護研究交流センター　ホームページ
5. いきいき県民カレッジ：平成 26 年度より看護研究交流センターの公開講座を登録
(※どこでもカレッジ公開講座を除く)

Ⅱ　広報活動

広報誌、新聞、ラジオ等における広報目的の掲載は以下のとおりである。

1. 先駆的学習支援部門(23 回)

講座名	記事掲載・放送
『看護大・上教大連携公開講座』 長寿の秘訣！ これならできるこころの養生法	広報上越(5/15)、上越タイムス(5/22)(7/7) 、新潟日報(6/24)、いといがわおしらせばん(6/25) 、上越 NIC おはよう通信(6/26)、上越よみうり(7/2)(7/6)、有線放送、ラ・ラ・ネット、がんぎネット
『市民公開講座』 医療者のアタマの中で進めていること ～臨床推論～	新潟県立看護大学後援会だより vol.29(8 月)、広報上越(8/1)、いといがわおしらせばん(8/25) 、上越 ASA ニュース(8/30)、上越タイムス(9/4) (10/4)、新潟日報(9/9)、上越よみうり(9/17)、上越 NIC おはよう通信(9/26)、有線放送、ラ・ラ・ネット、がんぎネット

2. 地域社会貢献部門『いきいきサロン』(72 回)

講座名	記事掲載・放送
【第 1 回】 予防可能な認知症は予防しよう ～今からでも間に合う予防活動～	上越タイムス(4/10)(5/16)、上越よみうり(4/24)(4/26)、いといがわおしらせばん(4/25)、広報上越(5/1)、上越 ASA ニュース(5/11)、上越 NIC おはよう通信(5/15)、有線放送、ラ・ラ・ネット、がんぎネット
【第 2 回】 急がば回れの健康体操	いといがわおしらせばん(5/25)、上越よみうり(5/30)(6/2)(6/3)(6/5)(6/15)、広報上越(6/1)、上越タイムス(6/5)、joetsu assh(6/14)、上越 ASA ニュース(6/14)、有線放送、ラ・ラ・ネット、がんぎネット
【第 3 回】 「訪問看護」をご存知ですか	上越タイムス(6/26)(7/18)、広報上越(7/1)、上越 ASA ニュース(7/12)、有線放送、ラ・ラ・ネット、がんぎネット

講座名	記事掲載・放送
【第 4 回】 低栄養を学ぼう ～これから始める予防法～	新潟県立看護大学ニュースポルティコの広場 vol.33(7 月)、新潟県立看護大学後援会だより vol.29(8 月)、いといがわおしらせばん(8/25)、上越タイムス(8/28) (9/19)、広報上越(9/1)、上越 ASA ニュース(9/13)、上越よみうり(9/6) (9/12) (9/14)(9/15) 、上越 NIC おはよう通信(9/19)、有線放送、ラ・ラ・ネット、がんぎネット
【第 5 回】 生活習慣病について	新潟県立看護大学ニュースポルティコの広場 vol.33(7 月)、新潟県立看護大学後援会だより vol.29(8 月)、上越タイムス(9/25) 、広報上越(10/1)、上越 ASA ニュース(10/11)、上越よみうり(10/1) (10/3) (10/6) (10/12)、有線放送、ラ・ラ・ネット、がんぎネット
【第 6 回】 『ストレス』と上手に付き合うには	新潟県立看護大学ニュースポルティコの広場 vol.33(7 月)、新潟県立看護大学後援会だより vol.29(8 月)、いといがわおしらせばん(10/25)、joetsu assh(10/27) 、上越 ASA ニュース(11/6)、上越タイムス(10/30) (11/14)、上越よみうり(11/11) (11/13)、広報上越(11/1)、新潟日報(10/31)、有線放送、ラ・ラ・ネット、がんぎネット

3. 看護職学習支援部門『どこでもカレッジ公開講座』(12 回)

講座名	記事掲載・放送
看護研究のテーマをみつけよう	上越タイムス(4/3 同時)
文献検索の基本 ～看護研究の論文を探す・入手する～	上越タイムス(5/15)
さあはじめよう看護研究 ～研究計画書の書き方まで～	上越タイムス(4/3 同時)、新潟日報(5/27)
看護研究のための統計処理 (統計専門ソフト SPSS・エクセルの紹介)	上越タイムス(7/17)
わかりやすいプレゼンテーションのやりかた	上越タイムス(7/31)
手塩にかける教育－人材育成につなぐ OJT とリフレクションのコツ－	新潟日報(8/12) 、上越タイムス(7/24)
高齢者のスキンケア～オムツ環境とスキンテアの対策～	上越タイムス(9/11)
呼吸のフィジカルアセスメント	上越タイムス(10/23)
看護職員再就職支援セミナー	新潟日報(7/1)、広報上越(7/15)、

4. 地域課題研究開発部門(0 回)

発表会名	記事掲載・放送
平成 30 年度上越地域看護研究発表会　及び 平成 29 年度地域課題研究発表会	

5. 事務局(3 回)

講座名	記事掲載・放送
出前講座	上越タイムス(2/26・3/20)、上越 ASA ニュース(3/1)

Ⅲ　記事掲載・放送

新聞、放送等における取材は以下のとおりである。

1. 先駆的学習支援部門(1 回)

講座名	記事掲載・放送
『看護大・上教大連携公開講座』 長寿の秘訣！ これならできるこころの養生法	上越タイムス(7/11)

2. 地域社会貢献部門『いきいきサロン』(2 回)

講座名	記事掲載・放送
【第 1～6 回】	新潟県立看護大学ニュースポルティコの広場 vol.34(1 月)
【第 1 回】 予防可能な認知症は予防しよう ～今からでも間に合う予防活動～	上越タイムス(5/19)

3. 事務局(1 回)

講座名	記事掲載・放送
出前講座	上越タイムス(7/17)

Ⅱ．部門報告

先駆的学習支援部門

平澤則子、原等子、田口玲子、大口洋子、山岸美奈子、大倉由貴

先駆的学習支援部門は、看護・医療・福祉分野の研究や実践に関する新しい知見やトピックスについて著名な学識者を招く公開講座と、上越教育大学との連携講座を開催し、地域住民の方々に学習の機会を提供している。

Ⅰ　市民公開講座

テーマ　医療者のアタマの中で進めていること～臨床推論～
日　時　平成 30 年 10 月 5 日(金)　18:00～19:30
講　師　山内豊明先生（医学博士）
放送大学大学院 文化科学研究科 生活健康科学 教授

講師紹介

医師として臨床経験を経て米国で看護師免許取得。帰国後、日本の看護師・保健師免許取得。フィジカルアセスメントの第一人者であり、その著書やセミナーにおけるわかりやすい解説が多くの学生や教員の支持を得ている。

講師経歴

1985 年新潟大学医学部医学科卒業。1991 年同大学博士課程修了、医学博士。内科医・神経内科医として通算 8 年間の臨床経験の後、カリフォルニア大学医学部勤務。1996 年ペース大学看護学部卒業、米国・登録看護師免許取得。1997 年同大学院看護学修士課程修了、米国・診療看護師（ナース・プラクティショナー）免許取得。1998 年ケース・ウェスタン・リザーブ大学看護学部大学院博士課程修了、看護学博士。同年に帰国し、1999 年看護師、保健師免許取得。2002 年名古屋大学大学院医学系研究科基礎・臨床看護学講座教授。2018 年 4 月より現職。

講義内容

体調を崩した場合、病院では「○○病」というような診断名が付けられる。しかし診断名を確定する前に、まずは何が起こっているのかについての推理・推論をしている。この臨床推論とは、元々は医師が診断や治療を決定するための思考プロセスのことをいう。看護師は医師のように診断や治療を決定する立場ではないが、患者の症状などから状態を把握するために、看護師にも必要な考え方といわれている。

臨床推論にはさまざまな進め方があり、パターン認識、仮説演繹法、診断基準／アルゴリズム、徹底的検討法などを、ケースによって使い分けていく。看護師が行うのは、患者の状態を的確に把握して、よりよいケアを提供するためであり、臨床看護場面では、患者の緊急度や重症度を判断するためなどに用いられている。

臨床推論のコツは、看護師が頭の中で判断するための段取りをふまえ、目的・優先度・情報の共有・柔軟な考え・除外・影響への考慮が重要である。判断していく上で、道具も大切だが、看護師は道具がなくても判断できるスキルを身につけることでより迅速に次の行動に移すことができる。最も大事なことは，何をアセスメントしたいのか、目的は何かということである。目的が決まれば自ずと「そのためにはこのような情報が要る」、「ここまでは要る」、あるいは「このような情報は要らない」と決まる。

医療ケアとは、生活を支える「生きている」ための機能、「生きていく」ための機能を判断し、２つの生に関わりを持つことである。フィジカルアセスメントの基本を学ぶとともに、さらに「なぜ」「何のために」行っているのか、言葉できちんと説明できるようになる必要がある。

参加者の状況

(1)参加者　166 人（うち学生 90 名）

(2)アンケート結果による評価

①アンケートの回収 58 人（87.9%）

②講師の話の全体的な感想

非常に良かった	36 人（62.1%）	良かった	19 人（32.8%）
普通	1 人（1.7%）	少し難しかった	2 人（3.4%）
難しかった	0 人（0.0%）	無回答	0 人（0.0%）

③感想の一部

・看護職ではなく臨床心理士ですが、普段行っている仕事が理論化され、大変参考になりました.

・とてもわかりやすく、疑問に思っていた事が話題に上がり、スッキリしました。医療側と患者側のミスマッチな部分がわかりました。医療者への対応の仕方を考えて、正しく状態を伝えられるよう、言葉を選んで行きたいと思います。

・ユーモアをまじえてお話し下さり臨床推論の深さを学ぶことができた。直感の素晴らしさとあやうさ、ものごとには両面あることを考えることができた。母を病院で亡くした経験があるが、どこかで納得できないところがあった。臨床推論がどのようになされたのか知りたい。家族にも頭の中を説明してほしかった。責めたいのではなく、知りたいのです。

Ⅱ　平成 30 年度　看護大・上教大連携公開講座

テーマ　長寿の秘訣！これならできる心の養生法

日　時　平成 30 年 7 月 8 日(日) 13:30～15:30

場　所　新潟県立看護大学第 2 ホール

講　師　新潟県立看護大学　長谷川雅美副学長　北村千章講師

上越教育大学　田中圭介講師　宮﨑球一助教

講座の概要

両大学の研究者が、「健康長寿を実現するための心の養生法」について解説し、トークセッションが行われた。参加者は、発達障害や子どもの未来につながる生き方、マインドフルネス、うつ予防などについて、実践可能なヒントを持ち帰ることができた。

話題提供

○宮﨑助教(上越教育大学):**「発達障害を知ろう ～子どもが発達障害だと言われたら？～」**

本講演では、まず自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、学習障害について、各発達障害の特徴や、診断、服薬等に関する基本的な情報を伝えたい。その上で、発達障害の理解

と支援に関する考え方を２つ提示する。１つめは、発達的特徴そのものが障害なのではなく、「発達的特徴と環境との相互作用によって障害は生じる」という考え方である。発達的な特徴があったとしても、学校や職場等で環境が整えられていれば、子どもは問題なく（楽しく！）生活できるようになること、我々の社会はこのような視点を取り入れていく必要がある。２つめは、「ある行動が持続しているならば、その行動をとることでその子は大切なものを得ている」という心理学的な考え方である。発達障害をもつ子どもの行動が周囲から問題に見えても、本人にとっては自分を守るための対処となっている可能性がある。

子どもの行動をこのようにとらえ、無理にやめさせるのではなく、同じ結果を得られる代わりの行動を探すとよいことを、具体的な事例を交えて説明する。これらの考え方は、発達障害の有無に関わらず、私たちが社会で他者と一緒に生きていく上で重要である。

○北村講師（新潟県立看護大学）:**「子どもの未来につながる生き方：丁寧に生きるとは」**

子どもたちの 100 人に約 4 人の割合で生まれつきの病気があると言われている。元気な子どもが欲しい、それは誰もが望む自然な想いである。しかし近年、いのちの選択を問われる新型出生前検査（NIPT）が導入されたことで、陽性症例の妊娠人工中絶率の高さが課題となっている。中絶が多いことは確かに問題であるが、その根本にある「産み育てにくい社会」が課題なのではないか。この世に生まれてくるすべての子どもには、「生きる力」がある。私たち大人にできることは、子どもの持つたくさんの可能性に気づき、その可能性を広げること。障がいのある子どもも、親以外の第三者にきちんと生活を支援してもらえれば「ひとり立ち」ができる。

子どもたちに伝えていってほしいことがある。それは、人とのつながりを通して人は深い満足感を抱くこと、人から慕われたり愛されたり尊重されたりする時に幸せだと思えるということである。幸せとは、物質的豊かさではなく精神的豊かさをもつことだと思う。大人の行動を見て子どもたちは育つ。丁寧に生きよう。心の中にある優しい気持ちを表現してみよう。

○田中講師（上越教育大学）:「マインドフルネス：今を大切にする心を養う」

本講座では，マインドフルネスと呼ばれる“今この瞬間に意識を向ける”体験の意義とその練習方法を解説する。マインドフルネスの訓練は、仏教瞑想を参考に欧米で発展し、抑うつ感情や不安、ストレスの緩和に効果があることが知られる。また、注意を集中することで脳を活用し、認知機能にも良い影響をもたらすと言われる。これらの効用を通して、老化防止の効果も期待される。マインドフルネスの最も簡易な練習法として、呼吸の回数を数える方法が挙げられる。この方法では、自分の呼吸の回数を 1-10 まで繰り返し数えることを行う。この際、雑念や否定的な考えが頭に思い浮かんだり、その他の体験へと気がそれたりすることがある。気がそれたことに気づき、再び呼吸に注意を戻すことを繰り返すことで、“今この瞬間に意識を向ける”という感覚を養うことができる。また、日常的に行っている食事や歩行などの行為を普段よりもゆっくりと行い、その時に生じる自身の感覚（例えば、食べ物の形や味、身体感覚、心の動きなど）に普段よりも意図的に意識を向けることも良い練習となる。日々の生活の瞬間 瞬間を大切にすることが,健康な生活を送るための一つのコツである。

○長谷川副学長（新潟県立看護大学）:**「高齢者のうつと対応－看護の視点から－」**

今回は、高齢者のうつ状態に焦点を当て、その特徴と対応の方法を中心にお話ししたい。

私たちには、高齢者には視力、聴力、身体機能の低下などが生じていることを理解し、その状態に応じた会話方法や対応の工夫をすることが私たちに求められている。高齢者のうつ症状の特徴として、意欲・集中力の低下、認知機能低下（物覚え、物忘れの訴え）、身体的不調の訴え、他疾患・薬物起因性のうつ、脳血管性障害の患者（脳血管性うつ）、被害

妄想、苛立ち・焦り、睡眠障害が挙げられる。「認知症」と見分けがつかなかったり併存することもあり、その判別が重要である。高齢者のうつ病への誘因として、夫など重要な人の死、健康上の悩み、心配事、役割の喪失・疎外感、介護負担などがある。高齢者のうつ病は、女性に多く、手足のしびれ、便秘、動悸、発汗などの身体症状、妄想をもちやすい（貧困妄想、罪業妄想）のが特徴である。高齢うつ病者への対応として、言ってはいけない言葉と会話時の注意、気をつける観察ポイントについて理解することが大切である。
ご本人は自分のことを「わかってほしい」のである。ゆるりゆるす心で話を聴き、接してみよう。

参加者の状況

(1)参加者　139 人

(2)アンケート結果による評価

①アンケートの回収 116 人（83.5%）

②講師の話の全体的な感想

非常に良かった	39 人（33.6%）	良かった	51 人（44.0%）
普通	11 人（9.5%）	少し難しかった	5 人（4.3%）
難しかった	2 人（1.7%）	無回答	8 人（6.9%）

③感想の一部

・パネリストの先生方がそれぞれの専門分野からテーマに近づけて下さり、そのリレーを感じた研修を聞くことができました。
・子供が発達障害で、タイトルを見て参加させてもらいましたが、当事者だけでなく、こういった障害と縁のない人にもお話をしていくというのはとてもありがたいです。
・①発達障害…障害の意味を改めて考えさせられました。②子供の未来…丁寧に生きているのかの問いに、心が動きました。③マインドフルネス…大変興味を持ちました。④高齢者のうつ…大変興味をもってききました。
・専門的な立場でのお話がきけてとても有り難かったです。どんなであいも大切に。人も自分も一日一日、ゆっくり穏やかに生きていく事がいいのかなぁと思いました。
・各先生方のお話もわかりやすく、これから仕事や家族に対する話し方が良くわかりました。今の若者も子供の頃に発達障害やうつ病のため、事件が増加していると思います。

地域社会貢献部門

高林知佳子、川野英子、川島良子、天谷まり子、安達寛人、
伊藤ひかる、久保野裕子、坂田智佳子、室亜衣、相澤達也、上田恵

地域社会貢献部門では、地域住民の方々が気軽に大学に足を運び、健康について関心を寄せ、学び合う場を目指す「看護大いきいきサロン」を平成 21 年度から開催している。

Ⅰ　開催状況

平成 30 年度は、5 月から 11 月にかけて計 6 回、いずれも平日の夕方に開催した。講師は、上越地域にある運動施設の代表者、上越地域の訪問看護ステーション管理者、上越地域の病院長や管理栄養士、当大学の教員とし、それぞれの専門テーマで講演の後、地域住民の方々からの質問に答えてもらう時間を設けた。

平成 30 年度の参加者は 806 人であり、平成 21 年度から開始して、いきいきサロンの参加者は通算 6,393 人となった。

表 1　開催日時およびテーマ・講師と参加人数

回	日時	テーマ	講師	参加人数
第1回	5/17（木） 18:30～19:30	予防可能な認知症は予防しよう ～今からでも間に合う予防活動～	新潟県立看護大学 老年看護学教授 小野幸子先生	183人
第2回	6/21（木） 18:30～19:30	急がば回れの健康体操	リビネス代表 堀川俊之先生	139人
第3回	7/19（木） 18:30～19:30	「訪問看護」をご存知ですか	訪問看護ステーションテンダー上越　管理者 渡辺久枝先生	88人
第4回	9/20（木） 18:30～19:30	低栄養を学ぼう ～これから始める予防法～	けいなん総合病院併設 はねうまの里　管理栄養士 菅野さとみ先生	124人
第5回	10/18（木） 18:30～19:30	生活習慣病について	上越地域医療センター病院 院長　古賀昭夫先生	122人
第6回	11/15（木） 18:30～19:30	『ストレス』と上手に付き合うには	新潟県立看護大学 学生相談カウンセラー 臨床心理士　多門敬子先生	150人

Ⅱ　参加者のアンケート結果

（1）参加者の年代

70 歳代が 239 人(38%)と最も多く、次いで 60 歳代が 202 人(32%)、50 歳代が 98 人(16%)であった。

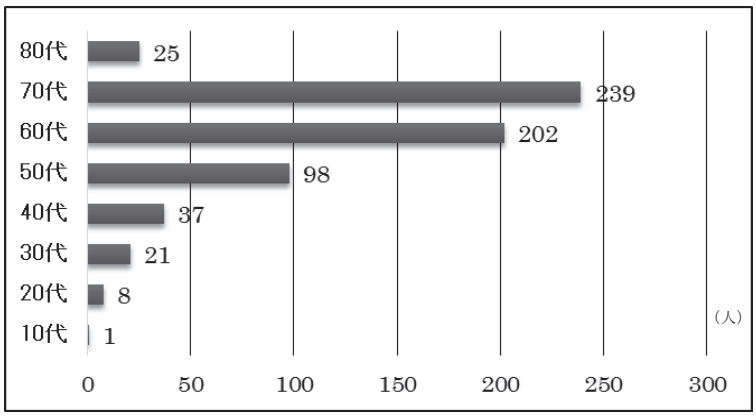


図 1　年代

（2）これまで参加した回数

これまでに「10 回以上」参加した人が 210 人(33%)と最も多く、次いで「1～5 回」参加した人が 186 人(29%)、「初めて」が 117 人(18%)、「6～10 回」参加した人が 112 人(18%)の順であった。

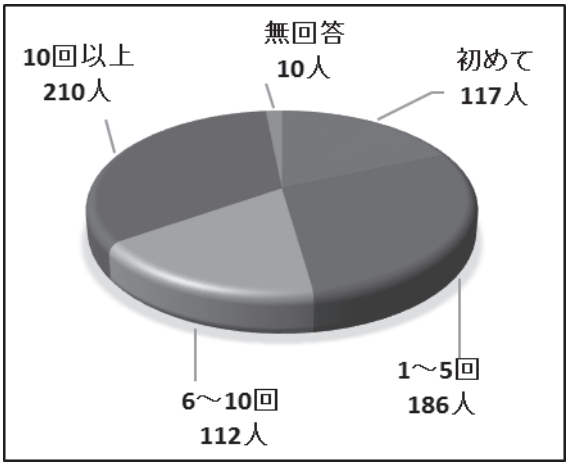


図 2　参加回数

（3）周知方法（複数回答）

「リーフレット送付」によって参加した人が 209 人(28%)と最も多く、次いで「市広報誌」172 人(23%)、「新聞」113 人(15%)「チラシ」110 人(15%)、の順であった。

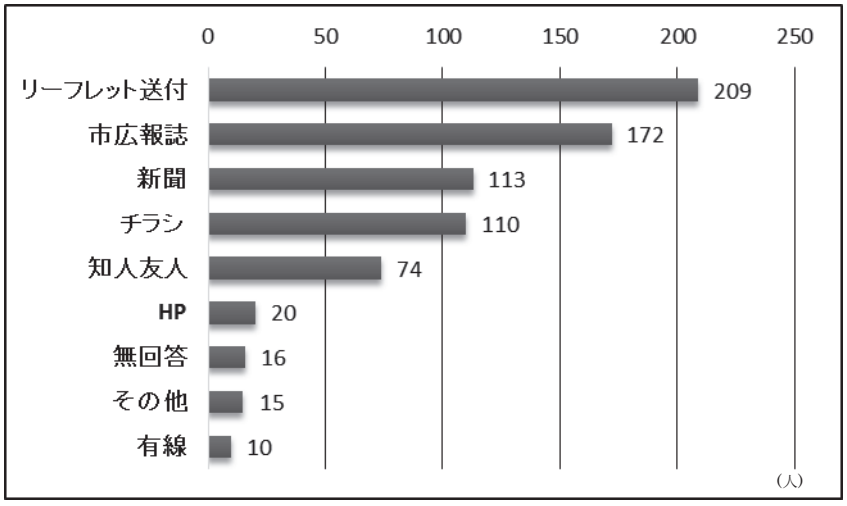


図 3　周知方法（複数回答）

（4）参加理由（複数回答）

参加理由では、「テーマに興味・関心があったから」が 421 人（48%）と最も多く、次いで「健康のため」が 180 人（21%）、「毎回参加しているから」が 157 人(18%)、「講師の話を聞きたかったから」が 99 人(11%)であった。

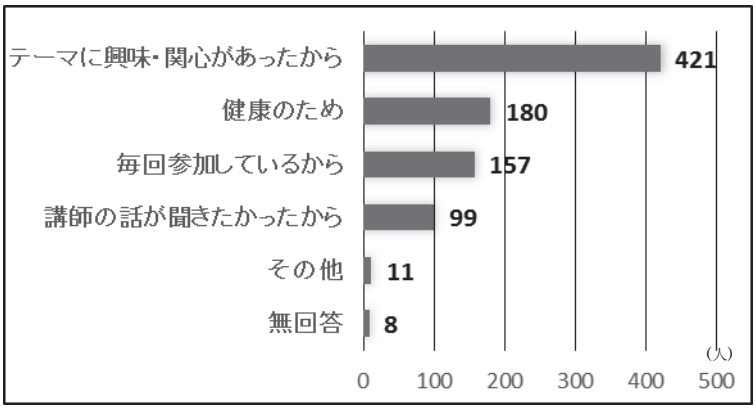


図 4　参加理由（複数回答）

（5）講師の話についての感想

全体では、「非常に良かった」と回答した人は 259 人(41%)、「良かった」と回答した人は 265 人(42%)であった。

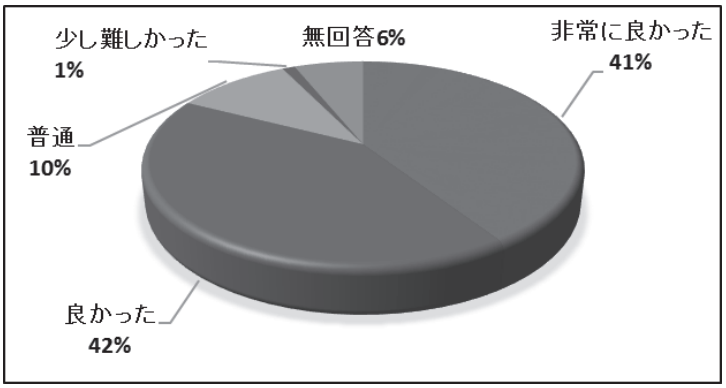


図 5　講師の話についての感想

（6）今後、とりあげてほしいテーマ（複数回答）

多かった項目は「肩こり、腰痛」と「認知症」が 143 人(18%)と最も多く、次いで「生活習慣病」129 人(16%)、「目の病気」123 人(15%)、「アレルギー」122 人(15%)、「ストレス」120 人(15%)の順に多かった。

その他の自由記載には、下肢静脈瘤、歯、食事、頭痛、不整脈、看取り、目まい、免疫等、多くのテーマがあげられていた。

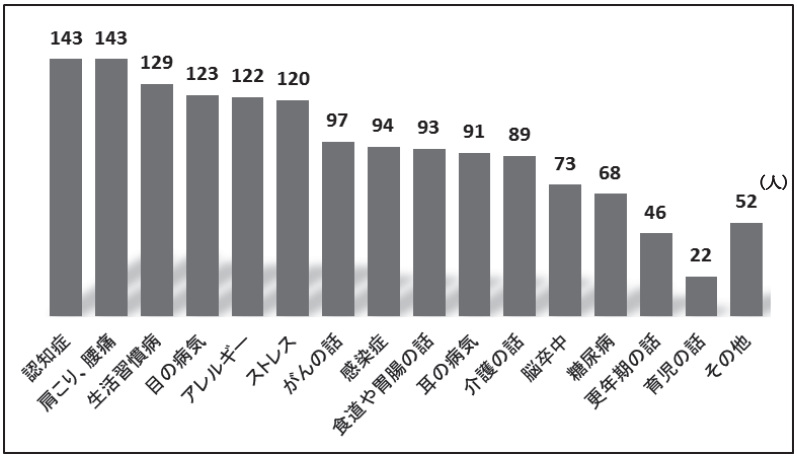


図 6　今後とりあげてほしいテーマ（複数回答）

2. いきいきサロンの運営

1）企画実行メンバー

地域社会貢献部門のメンバー11 名（うち 1 名は育休）が主に企画と運営を行った。サロン通信の作成、講師交渉と接待、参加者への配布物品（ファイル）や参加者用お茶等の準備、当日運営等をそれぞれが役割分担して行った。

ポスター・チラシの作成・発送、新聞広告への掲載依頼、講師資料の印刷、当日の受付等については、看護研究交流センター事務局の事務職員から、当日の会場準備は大学の事務職員から手伝ってもらった。

当日の運営では、学生アルバイト 4 名から、会場準備や受付、お茶出しを行ってもらった。

2）広報活動

看護研究交流センターの案内、リーフレットの発送、看護大いきいきサロン通信の発行（2 回）の他、毎回実施前に、ポスター・チラシの作成と配布、大学ホームページでの情報公開、新潟日報おはよう通信、上越タイムス「くびきの創信」、上越よみうり、上越 ASA ニュース、市広報誌への掲載を行った。

3）講師謝礼

学外からの講師には 1 回 1 万円および交通費を支払った。

4）参加者への接待

昨年と同様、参加者に対してお茶のサービスを行った。初回参加者には講義資料の保管用として看護大いきいきサロンと大学のロゴマークがついたファイルを配布した。また開始前にリラックスできるような音楽を流すことや、机にテーブルクロスをかけることで、サロンの雰囲気を出すための工夫を行った。また、サロンの最後に他のセンター事業等のお知らせと参加の呼びかけを行い、他部門の事業の宣伝も努めた。

3. 平成 30 年度の評価と今後の課題

30 年度の参加人数は、昨年度より 62 人上回る 806 人であった。このうち 10 回以上参加している人は年々増加し（28 年度 121 人、29 年度 152 人、30 年度 210 人）、初めて参加した人は減少（28 年度 218 人、29 年度 128 人、30 年度 117 人）していた。このことから、受講する人の固定化が進んでいると考えられる。

一方、講師の話に対する満足度では、「非常に良かった」「良かった」の合計が 86.0%（H30 中期目標）に達しなかった回が 6 回中 4 回あり、そのうち 2 回は 70%台（70.1%、79.5%）であった。これらの回のアンケートには、「わかりやすかった」の感想がある一方で、「字が小さく（もしくは薄く）見えなかった」「もっと具体的な話を聞きたい」の意見がみられていた。今後はこれらの点もふまえながら、講師との打ち合わせを十分行っていく必要がある。

また、30 年度いきいきサロンに参加した理由をみると、「テーマに興味・関心があったから」が参加者の 5 割近くを占め、2 番目に多い「健康のため」と大きく差が生じていたことから、地域住民のニーズに合う内容としていくために、アンケートで希望の多かったテーマを参考にしながら内容を検討していく必要がある。

学生アルバイトに受付やお茶出しを行ってもらったことで、参加者と看護学生が交流できるよい機会になっていたが、マイナンバー等の関係上、学生雇用手続きを行うことが容易でなくなってきていることから、再来年度からは派遣業者の活用に切り替えることが可能であるかを検討していく必要がある。

資料 1－平成 30 年度いきいきサロン通信第 1 号

公立大学法人　新潟県立看護大学　看護研究交流センター　地域社会貢献部門

看護大 いきいき サロン通信

第 10 巻　第 1 号　2018 年 5 月 17 日

「いきいきサロン」は、健康に関心のある地域の皆様と、看護や健康等の専門家が気軽に交流することを目的としたサロンです。皆様からのご要望や健康に関する世の中の動き等を参考にしながら、今年度も皆様がいきいきと生活していくことを応援するテーマを準備いたしました。

開催日時は、いずれも 木曜日の 18:30 ～ 19:30 となっております。
お申し込みは不要です。参加費は無料です。どうぞお気軽にご参加ください！

日時	テーマ	講師
6 月 21 日（木） 18：30～19：30	急がば回れの健康体操	リビネス代表 堀川 俊之 先生
7 月 19 日（木） 18：30～19：30	「訪問看護」をご存知ですか	訪問看護ステーション テンダー上越 管理者　渡辺 久枝 先生
9 月 20 日（木） 18：30～19：30	低栄養を学ぼう～これから始める予防法～	けいなん総合病院併設 はねうまの里 管理栄養士　菅野 さとみ 先生
10 月 18 日（木） 18：30～19：30	生活習慣病について	上越地域医療センター病院 院長　古賀 昭夫 先生
11 月 15 日（木） 18：30～19：30	『ストレス』と上手に付き合うには	新潟県立看護大学 学生相談カウンセラー 臨床心理士　多門 敬子 先生

昨年度全 6 回のサロン参加者数は延べ 744 人でした！
毎年多くの方にお越しいただいております。
今後も皆様のご要望に沿ったテーマでサロンを企画していきたいと思っておりますので、お聞きになりたいテーマや気になっていることがある方は、お気軽にアンケートにお書きください！

資料 2－平成 30 年度いきいきサロン通信第 2 号

公立学校法人 新潟県立看護大学　　看護研究交流センター 地域社会貢献部門

看護大いきいきサロン通信

第 10 巻第 2 号 2018 年 9 月 20 日発行

看護大いきいきサロンは、健康に関心のある地域の皆様と、看護や健康等の専門家が気軽に交流することを目的としたサロンです。今年度行われました、第1回～第3回のサロンの内容をご紹介します。

第1回(5/17):予防可能な認知症は予防しよう
～今からでも間に合う予防活動～

講師:小野幸子先生(新潟県立看護大学 老年看護学 教授)

誰でも起こりうる認知症について、"予防可能な認知症もあることを理解し、その予防法に取り組みましょう" を目的に講義を行っていただきました。「資料がとてもよかった」「専門的で楽しい講義だった」「いずれは我が身の話であり大変良かった」等の嬉しい感想を頂きました。とても充実した内容のお話でした。

第2回(6/21):急がば回れの健康体操
講師:堀川俊之先生(リビネス代表)

加齢と共に身体機能は低下しまいます。そこで、運動を続けることの大切さと、体に負担なく気軽にできる「スローリー体操」をご紹介してくださいました。「できそうな体操でよかった」「手軽にできる体操だった」「続けられそう」等の感想が寄せられました。体操や運動は毎日の積み重ねが大切だということを改めて感じたお話でした。

第3回(7/19):「訪問看護」をご存知ですか
講師:渡辺久枝先生(訪問看護ステーション テンダー上越 管理者)

身近にあるようで、詳しくは知らない訪問看護。住み慣れた場所で生活しながら過ごしていくことを実現させる為の訪問看護について、お話して頂きました。「訪問看護を身近に感じた」「名前は聞いていたが、詳しいことが知らなかったので理解できた」等の感想を頂き、皆様に訪問看護について知っていただける機会となりました。

≪今後の予定≫

日時	テーマ	講師
第4回 9月20日(木) 18:30～19:30	低栄養を学ぼう～これから始める予防法～	けいなん総合病院併設 はねうまの里 管理栄養士 菅野さとみ先生
第5回 10月18日(木) 18:30～19:30	生活習慣病について	上越地域医療センター病院 院長 古賀昭夫先生
第6回 11月15日(木) 18:30～19:30	『ストレス』と上手に付き合うには	新潟県立看護大学 学生相談カウンセラー 臨床心理士 多門敬子先生

事前申し込みは不要です。皆様のご参加を心よりお待ちしています！

看護職学習支援部門

岡村典子、髙塚麻由、小池潤、小林綾子、大倉由貴、
東條紀子、相澤達也、谷内田潤子、野澤祥子

Ⅰ　本部門の事業目的

新潟県内、特に上越地域の看護職の総合的な資質向上を目指し、様々な学習および研修の機会を提供する。このことにより看護職の資質向上をはかり、県民のヘルスケアの充実を目指す。加えて、卒業生の卒後教育も視野に入れた看護職の復職支援を行う。

Ⅱ　平成 30 年度の事業の概要

今年度は、看護職向け公開講座（専門公開講座＝どこでもカレッジ公開講座）を 11 回開講、どこカレ通信の発行（4 回）、バーチャルカレッジの開講を継続して行った。本部門では、公開講座、およびバーチャルカレッジの 2 つの活動を「どこでもカレッジプロジェクト」と通称し、広報活動を行っている。以下に、事業の詳細を記す。

１．専門公開講座（どこでもカレッジ公開講座）

専門公開講座は 11 回開講した（表 1　専門公開講座開催実績参照）。看護職向けとしているが、ほとんどの講座を、介護職を中心に多職種にも公開している。開講講座の選定は、昨年度の参加者の方々から寄せられた希望する公開講座のテーマに関する意見を参考に行った。現場応援トピックスとして、今年度は教育に関する講座を選定し、京都大学医学部附属病院総合臨床教育・研修センター助教の内藤知佐子先生に「手塩にかける教育 ー人材育成につなぐ OJT とリフレクションのコツー」をテーマに講演をしていただいた。現場での指導の場面を交えながらの講義はわかりやすく、参加者からは，「“新人の行動だけでなく、水面下にある思考・感情・望みをくみとる”ということがとても参考になった」「自分を振り返ること，見つめることができた」などの感想が寄せられた。

その他、看護研究支援（5 題）、看護実践スキルアップ（5 題）の講座を開催した。看護研究支援では、本学の小林綾子先生、新潟県立大学図書館主任司書の吉原貴子さんに「文献検索の基本 ～看護研究の論文を探す･入手する～」をご担当いただいた。「文献検察について詳しい説明を受け、研究が進められそうです」「“AND”” OR”検索について理解できました。便利な機能を体験しながら学ぶことができてよかったです」といった声が受講生から寄せられた。

また、「看護研究のための統計処理（統計ソフト SPSS・エクセルの紹介」」では、本学の橋本明浩先生から、統計処理の基礎について、実際に SPSS やエクセルを使用した演習を盛り込んだ講義していただいた。参加者からは、「考え方や基本的なことがわかった」「根本的な統計の基礎を教えていただき、振り返りができてよかった」といった声が聞かれた。

看護実践スキルアップのうち、4 回目となる「TeamSTEPPS」（講師；近畿大学医学部附属病院の辰巳陽一先生）は、参加者からの要望に応えて二日間の日程で開催した。演習では、各種ゲームで楽しく競い合うとともに、ゲームに隠れている TeamSTEPPS の本質を考えながら学ぶ内容が盛り込まれるなど、充実した研修会となった。また、辰巳先生自身の取り組み内容から、実際に各施設で TeamSTEPPS を導入する際のプロセスや継続するためのポイ

ントについても教えていただいた。参加者からは、「抽象的な概念と具体的な内容を組み合わせていたのでわかりやすかった」「話が面白く、なるほどと思うことが多くて有意義な時間を過ごせた」との感想が寄せられた。

他には、例年要望の多いスキンケアについて、新潟県立中央病院皮膚・排泄ケア認定看護師の林智子先生に来ていただき、「高齢者のスキンケア ～オムツ環境とスキンテアの対策～」をテーマに、講義だけでなく演習もしていただいた。体位変換時の工夫や注意点だけでなく、保湿剤や剥離剤、医療用テープの剥離方法などの体験が盛り込まれた。参加者からは、「実技をふまえたわかりやすい内容だった。今回の学びを職場で活かしていきたい」「日常業務で活用できる内容でよかった」「オムツのあて方（オムツの中の状態が）がよくわかった」「スキンテアの処置がわかりやすかった」などの感想が聞かれた。

また、例年同様に新潟県看護協会と連携し、「就職していない看護職（保健師、助産師、看護師、准看護師）の再就職を支援」するための知識や技術を身につける講習会を実施した。講師陣は、臨床現場で活躍されている看護部長の他、セーフティマネージャー、精神保健福祉相談員、認知症看護認定看護師といった方々に来ていただき、大変有意義な講習会を開催することが出来た。

当部門では、今年度の振り返りとして、昨年度に比較して定員以上の参加希望があり定員数を増やした講座があったこと、上越だけでなく中下越の施設からの参加も多くあったことが良かった点として挙げられた。今後の課題として、連休がある月は、参加者が参加しやすい日程に調整していく必要性があること、看護研究支援の講座に参加した参加者の一部は、地域課題研究につながっているケースもあったが、もう少し地域課題研究と繋がるよう内容を検討していくことが挙げられた。また、参加者のニーズを把握する方法として、参加者からのアンケートだけでなく、近隣病院や施設の参加状況をみることで、講座へのニーズを知る手掛かりになるとの意見もあったことから、次年度そうした傾向をみていくことも必要とされた。さらに、交流センターのリーフレットには年間予定のみで詳細な内容が記載されていないため、問い合わせを受けることがあったことを受け、今後リーフレットに QR コードなどをつけて交流センターの HP がみられるようにしてはどうかといった意見が出された。今後の公開講座の開催日程については、降雪時期を除いた土曜日に開催してきたが、予定が詰まっている現状もあることから、平日の夕方等の開催も検討していく必要性が意見としてあがっている。

表１　専門公開講座開催実績

区分	講座名	開催日	受講者数	金額	講師
現場応援トピックス	手塩にかける教育 －人材育成につなぐ OJT とリフレクションのコツ－	9 月 15 日（土） 13:30～15:00	42	無料	京都大学医学部附属病院 総合臨床教育・研修センター 助教　内藤知佐子先生
看護研究支援	看護研究のテーマをみつけよう	5 月 19 日（土） 13:00～16:00	39	無料	石田和子（本学）

	文献検索の基本　～看護研究の論文を探す・入手する～	6 月 9 日（土） 13:00～16:00	11	1,000 円	小林綾子（本学） 新潟県立大学主任司書 吉原貴子先生
	さあはじめよう看護研究 ～研究計画書の書き方まで～	6 月 23 日（土） 13:00～16:00	31	無料	石田和子（本学）
	看護研究のための統計処理 （統計ソフト SPSS・エクセルの紹介）	9 月 8 日（火） 10:00～16:00	10	2,000 円	橋本明浩（本学）
	わかりやすいプレゼンテーションのやりかた	9 月 18 日（火） 10:00～15:45	4	2,000 円	永吉雅人（本学）
看護実践スキルアップ	現場で活かす看護倫理	7 月 28 日（土） 13:30～15:00	66	無料	新潟県立がんセンター新潟病院 がん看護専門看護師 柏木夕香先生
	患者の安全を高める TeamSTEPPS 【基礎編】【充実編】	10 月 6 日（土） 7 日（日） 10:00～16:00	50	4,000 円	近畿大学医学部附属病院 教授　辰巳陽一先生
	感染対策の基本 ～適切な実践のために～	10 月 13 日（土） 13:30～15:30	29	1,000 円	厚生連糸魚川総合病院 感染管理認定看護師 廣田光恵先生
	高齢者のスキンケア ～オムツ環境とスキンテアの対策～	10 月 20 日（土） 13:00～15:00	46	1,000 円	新潟県立中央病院 皮膚・排泄ケア認定看護師　林智子先生
	呼吸のフィジカルアセスメント	11 月 24 日（土） 13:00～16:00	44	1,000 円	北里大学 講師　飯田智恵先生

２．どこカレ通信

メイト*に対する公開講座やバーチャルカレッジの周知を目的に、どこカレ通信をメイト向けに発行している。内容は、終了した公開講座の紹介、開催される公開講座の案内を中心とし、さらにメイト登録の案内等を掲載した（資料 1～4）。メイトへの発行媒体について、従来どおり紙面とするか、あるいはメール配信とするか検討事項としてあげていたが今年度は結論に至ってない。メイトのどこカレ通信活用状況等の調査を実施するなどにより最新のニーズを把握しながら、引き続き利用者ニーズに応じた広報活動のあり方を検討することが課題となる。実績については、別表（表 2　どこカレ通信発行実績一覧参照）にて詳細を示した。なお、どこカレ通信は、本学リポジトリ等に収録して広く公開している。

*メイト
学びたい希望を持つ方々へ学習の機会を提供する「どこでもカレッジプロジェクト」では、ともに学習する人々をメイトと呼び、別途申請書による登録を行い、どこカレ通信をはじめ、公開講座、市民公開講座、大学院等の案内を送付した。

本年度新規加入は 30 名、退会 4 名、3 月末現在メイト登録数は 200 名（1 月現在）と、

昨年度より約 30 人増加した。

表２　どこカレ通信発行実績一覧

	号名	発行日	送付部数	主な内容
1	41 号	6 月 13 日	200	終了した公開講座の紹介と今後のご案内、大学院説明会、バーチャルカレッジの案内
2	42 号	8 月 8 日	200	終了した公開講座の紹介と今後のご案内、地域課題研究・上越地域看護研究発表会案内、地域課題研究公募
3	43 号	10 月 19 日	200	終了した公開講座の紹介と今後のご案内、地域課題研究公募、メイト募集とバーチャルカレッジの案内
4	44 号	1 月 16 日	200	終了した公開講座の紹介、今年度の振り返りと次年度のお誘い

３．バーチャルカレッジ

今年度は、公開講座の講師より協力を得て 2 本の動画教材を作成した。1 本目は 7 月 28 日（土）開催の「現場で活かす看護倫理」（講師：柏木夕香先生)、2 本目は 10 月 13 日（土）開催の「感染対策の基本～適切な実践のために～」（講師：廣田光恵先生）である。専門業者に撮影および編集を依頼することで、より鮮明な画像での教材に仕上がった。また、昨年度に引き続き公開講座への誘いとして「看護研究交流センター長よりご挨拶」、担当講師による公開講座の「予告編」の 2 本の動画を公開した。なお、設定したアンケートへの回答は得られておらず、バーチャルカレッジ利用者からのフィードバックについては引き続き課題となる。

平成 30 年度公開講座参加者（372 人）のアンケート結果（355 人）によると、今年度の公開講座参加者のうちメイトは延べ 39 名であった。また、交流センターホームページ閲覧者 92 名のバーチャルカレッジ利用状況は、「よく利用している」はおらず、「たまに利用している」25 人（27.2%)、「見たことはない」64 人（69.6%）であった。バーチャルカレッジとして、認知症や問題解決技法、最新看護情報等の掲載希望があり、公開講座「感染対策の基本」は受講者の希望に応じて作成したものである。

４．その他

1）メイト獲得に向けた取り組み

公開講座開催毎、メイト募集について案内し周知を図った。また、今年度は、新潟県立中央病院看護部の継続教育の内容と重なっているバーチャルカレッジのコンテンツ（“ケーススタディ”“看護倫理”）があったことから、教育担当の看護副部長および看護師長へ働き掛けた結果、メイト登録の手続きが 17 件あった。

次年度は、引き続き利用者のニーズに応じた動画教材を作成し、バーチャルカレッジのコンテンツの充足を図り、リカレント教育の機会提供とともにメイト登録者数の増加に貢献することを課題とする。また、介護職の方からメイト会員の登録希望があったが、現状の会員の対象でないためにお断りした事案があった。今後は、会員登録の対象者について、今後大学規程集などの確認を含めた検討が必要である。

2）広報活動

看護研究交流センターご案内（リーフレット）の発送、ホームページやくびきの創信（上越タイムス）への公開講座情報等の掲載、公開講座の対象に合わせた病院や施設へのチラシの送付､公開講座時にも今後の公開講座のチラシを配るなどして､積極的に情報を公開した。また、公開講座の終了後アンケートにはHPに関わる設問を設け、HPの存在を周知するなどし、教員が実習などで訪れる際には各病院へチラシを持参し、直接参加を促す等の活動を行った。

資料 1－どこカレ通信 41 号

第41号　2018.6.13

どこカレ通信

新潟県立看護大学看護研究交流センター
「どこでもカレッジプロジェクト」は
看護師の学び直しを支援します。

過ごしやすい季節となりましたが、みなさまいかがお過ごしでしょうか。平成 30 年度の公開講座もスタートを切りました。今年度も充実したプログラムを提供すべく、取り組んでおります。会場でみなさまとお会いできること楽しみにしておりますので、ぜひご参加くださいませ。

終了した公開講座の紹介

5月19日に開催された、今年度最初の公開講座は「看護研究のテーマをみつけよう」です。本学成人看護学の石田教授でした。

39名よりご参加いただきました。参加者の皆さんとても熱心に受講され、看護研究の具体的な準備や方法について理解できたという声が寄せられました。研究に取り組む足がかりになったようですね。

続いて6月9日開催の「文献検索の基本」には11名よりご参加いただきました。参加者からは「詳しく教えていただいたので、必ず今後に役立つ」「文献検索がしやすくなり、研究が進められそう」「体験しながら学べてよかった」といった声が寄せられました。演習の最後には、それぞれが感心のあるテーマのキーワードを入れて、実際に検索してみました。

大学院看護学研究科大学院説明会のお知らせ

日 時　① 6/23（土）16:00～17:30
　　② 9/29（土）16:00～17:30
　　※事前申込み不要
場 所　新潟県立看護大学 大会議室

入試に関する全体説明の他、個別相談会も行います。6/23 開催の公開講座「さあはじめよう看護研究～研究計画書の書き方まで～」（※看護研究のテーマをみつけよう受講者のみ）ご参加の方はぜひこちらにもお立ち寄りください！

今後の公開講座

6月～9月の公開講座のご案内
置ってご応募ください！

○さあはじめよう看護研究
～研究計画書の書き方まで～
6月23日（土）13：00～16：00
講師：新潟県立看護大学教授　石田和子
参加費：無料

○現場で生かす看護倫理
7月28日（土）13：30～15：00
講師：新潟県立がんセンター新潟病院
がん看護専門看護師　柏木夕香　先生
参加費：無料

○看護研究のための統計処理
―統計ソフト SPSS・エクセルの紹介―
9月8日（土）10：00～16：00
講師：新潟県立看護大学教授　橋本明浩
参加費：2,000円

○わかりやすいプレゼンテーションのやり方
開催日が変更になりました
9月18日（火）10：00～15：45
講師：新潟県立看護大学准教授　永吉雅人
参加費：2,000円

○手塩にかける教育―人材育成につなぐ OJT とリフレクションのコツ―
9月15日（土）13：30～15：00
講師：京都大学医学部附属病院　総合臨床教育・研修センター　助教　内藤知佐子先生
参加費：無料

バーチャルカレッジのススメ

新しい教材も加わりました！ぜひご活用ください！
※閲覧にはメイト登録が必要です。

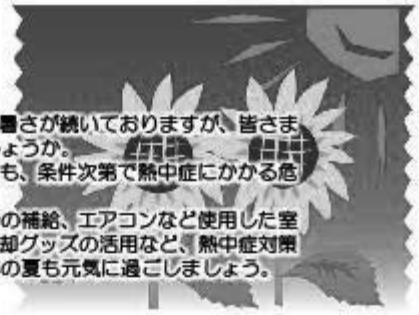
連絡先：新潟県立看護大学　看護研究交流センター（受付時間：平日9：30～16：00）
住所：〒943-0147 上越市新南町240　電話：025-526-2822（直通・FAX 兼）
Eメール：nirin@niigata-cn.ac.jp　ホームページ：http://www.nirin.jp/

資料 2－どこカレ通信 42 号

第42号　2018.8.8

どこカレ通信

新潟県立看護大学看護研究交流センター
「どこでもカレッジプロジェクト」は
看護師の学び直しを支援します。



例年以上に厳しい暑さが続いておりますが、皆さま、いかがお過ごしでしょうか。
いつでも、どこでも、条件次第で熱中症にかかる危険性があります。
適切な水分や塩分の補給、エアコンなど使用した室温・湿度の調整、冷却グッズの活用など、熱中症対策を十分に取り、今年の夏も元気に過ごしましょう。

終了した公開講座の紹介

さあはじめよう看護研究
～研究計画書の書き方まで～　6月23日開催

講師は本学の石田和子教授でした。参加者は31名でした。「一人一人の研究についての疑問等に丁寧に返していただきわかりやすかった」「具体的にアドバイスをいただけたので非常に良かった」等の声が寄せられ、好評でした。

現場で活かす看護倫理　　7月28日開催

新潟県立がんセンター新潟病院がん看護専門看護師の柏木夕香先生にご講演頂きました。参加者は66名でした。「看護倫理は自分には難しいと思い不安な気持ちで参加したが、わかりやすくとてもよかった。」等の意見があり、事例を交えた講義でわかりやすかったと大変好評でした。

今後の公開講座

10月の公開講座のご案内
みなさま奮ってご応募ください！

患者の安全を高めるTeamSTEPPS
（基礎編・充実編）
10月6・7日（土・日）10：00～16：00
講　師：近畿大学医学部付属病院
　　安全管理部教授　辰巳陽一 先生
定　員：80名
参加費：4,000円

感染対策の基本　～適切な実践のために～
10月13日（土）13：30～15：30
講　師：糸魚川総合病院
　　感染管理認定看護師　廣田光恵 先生
定　員：30名
参加費：1,000円

高齢者のスキンケア
～オムツ環境とスキンテアの対策～
10月20日（土）13：00～15：00
講　師：新潟県立中央病院
　　皮膚・排泄ケア認定看護師　林智子 先生
定　員：40名
参加費：1,000円

地域課題研究発表会・上越地域看護研究発表会

県内の保健・医療・福祉に携わる看護職と本学教員が、看護実践における課題解決に向けた共同研究の発表を行う「地域課題研究発表会」と、上越地域の看護職員が取り組んだ看護研究や実践報告を行う「上越地域看護研究発表会」を同時開催いたします。

日 時：平成30年9月29日（土）
　　10：00～12：00（上越地域看護研究発表会）
　　14：10～16：00（地域課題研究発表会）
場 所：新潟県立看護大学　第1ホール

たくさんの方々のご参加をお待ちしております！

地域課題研究　公募について

本学は看護実践現場での看護研究の活性化と看護の質の向上を目指します。
現場で抱えている疑問や関心などを、教員と一緒に研究してみませんか？

【公募期間】
平成30年10月1日（月）
▼
12月12日（水）午後3時必着

※公募要領・必要書類は、
看護研究交流センターHPより入手できます

連絡先：新潟県立看護大学　看護研究交流センター（受付時間：平日9：30～16：00）
住所：〒943-0147 上越市新南町240　電話：025-526-2822（直通・FAX兼）
Eメール：nirin@niigata-cn.ac.jp　ホームページ：http://www.nirin.jp/

資料 3－どこカレ通信 43 号

第 43 号　2018.10.19

どこカレ通信

新潟県立看護大学看護研究交流センター
「どこでもカレッジプロジェクト」は
看護師の学び直しを支援します。

スポーツの秋、読書の秋、食欲の秋、研修会の秋と秋もいよいよ深まってまいりました。寒い日が続いてまいりましたが、皆様に置かれましては、いかがお過ごしでしょうか。感染症の流行も気にかけながら、外から帰ったら、必ず手洗い・うがい、室内の適度な加湿に心がけるなど、予防をしっかり行って 、寒さに負けず元気に過ごしましょう。

終了した公開講座の紹介

看護研究のための統計知識～統計ソフト SPSS・エクセルの紹介～（9 月 8 日）

講師：橋本明浩先生（新潟県立看護大学　教授）

10 名の方にご参加いただき、「看護研究のステップに沿った話がきけてよかった」「根本的な統計の基礎を教えていただき、良かった。」等のお声をいただきました。

手塩にかける教育－人材育成につなぐ OJT とリフレクションのコツ－（9 月 15 日）

講師：内藤知佐子先生（京都大学医学部付属病院 総合臨床教育・研修センター助教）

42 名の方にご参加いただきました。「自分の中で OJT がうまくできていないところがあり、多く気づくことができた。」「新人の指導に役立てられると思いました。」等のお声をいただきました。

患者の安全を高める TeamSTEPPS（10 月 6，7 日　2Days）

講師：辰巳陽一先生（近畿大学医学部付属病院安全管理部　教授）

50 名の方にご参加いただきました。「TeamSTEPPS の基本的なことがわかってよかった。」「具体的な例を挙げたり、演習を組み込んであることでとてもわかりやすく体感できました。」等のお声をいただきました。

今年度の公開講座のご案内

呼吸のフィジカルアセスメント

北里大学 基礎看護学　飯田 智恵 先生

【日　時】 11 月 24 日(土) 13：00～16：00
【定　員】 36 名（先着順）　残席あとわずか！
【対　象】 看護職・介護職
【参加費】 1,000 円（事前振込 ）
【服　装】 動きやすい服装
【持ち物】 聴診器 ＊貸し出しも可能
【申込期間】10 月 15 日～11 月 14 日

2019 年度　地域課題研究　公募中！

日々のケアの中で感じている“疑問”、「何とかしたい！」“思い”、追求してみませんか？本学教員が共同研究者となり、看護職の方の研究を応援します。

【募集テーマ】看護実践における研究テーマ全般
【研究期間】2019 年 4 月～2020 年 2 月

★公募期間★

10 月 1 日～12 月 12 日午後 3 時必着

※詳細・様式はこちら☞ http://www.nirin.jp

現職の看護師や潜在看護師のリカレント教育を推進する事業「どこでもカレッジプロジェクト」

- どこカレプロジェクト メイト会員 随時募集中！！　どこカレ 検索
- バーチャルカレッジのすすめ･･･新しいバーチャルコンテンツを更新中です。ぜひご利用ください。

連絡先：新潟県立看護大学　看護研究交流センター（受付時間：平日 9：30～16：00）
住所：〒943-0147 上越市新南町 240　電話：025-526-2822（直通・FAX 兼）
Eメール：nirin@niigata-cn.ac.jp　ホームページ：http://www.nirin.jp/

資料 4－どこカレ通信 44 号

第44号 2019. 1. 16

どこカレ通信

新潟県立看護大学看護研究交流センター
「どこでもカレッジプロジェクト」は
看護師の学び直しを支援します。

新年を迎え、いかがお過ごしでしょうか。
今年度は皆様のご協力のもと、無事に 11 の公開講座を開催することができました。心より御礼申し上げます。
春からの公開講座とともに、バーチャルカレッジもご活用ください。スマホからも閲覧できます。
次年度も何卒よろしくお願い申し上げます。

終了した公開講座の紹介

感染対策の基本 ～適切な実践のために～　（10月13日）

講師：廣田光恵先生　糸魚川総合病院　感染管理認定看護師

29 名の方にご参加いただきました。「基本技術を確認できて良かった」「理解しているつもりや思い込みに気づき、感染について改めて学ぶことができた」などのお声をいただきました。

高齢者のスキンケア ～オムツ環境とスキンテアの対策～　（10月20日）

講師：林智子先生　新潟県立中央病院　皮膚・排泄ケア認定看護師

46 名の方にご参加いただきました。「講義だけでなく実技もあり実践できる具体的な方法だった」「オムツの当て方がわかりやすかった」「スキンテアの処置方法がよくわかった」「在宅での対応方法も学べて良かった」等のお声をいただきました。

呼吸のフィジカルアセスメント　（11月24日）

講師：飯田智恵先生　北里大学基礎看護学講師

44 名の方にご参加いただきました。「モデル人形を用いて音の違いを聴くことができて良かった」「呼吸音を聴取できたのでわかりやすかった」「呼吸音の違いや特徴を確認できた」等のお声をいただきました。

今年度の振り返りと次年度のお誘い

平成 30 年度は、現場応援トピックス 1 講座、看護実践スキルアップ 5 講座、看護研究支援 5 講座の合計 11 講座を開催しました。受講していただきました皆様、大変ありがとうございました。
次年度も看護職の皆様の学習を支援するために、頂いたお声を反映させて準備いたします。春には平成 31 年度のお知らせがお手元に届きますので、是非ご検討いただけますようお願い申し上げます。メイト会員の場合、各公開講座の申し込み開始日より 1 週間早くお申し込みができます！ぜひ先行申し込みをご利用ください。

連絡先：新潟県立看護大学　看護研究交流センター（受付時間：平日 9：30～16：00）
住所：〒943-0147 上越市新南町 240　電話：025-526-2822（直通・FAX 兼）
Eメール：nirin@niigata-cn.ac.jp　ホームページ：http://www.nirin.jp/

地域課題研究開発部門

飯吉令枝　石田和子　河原畑尚美　西田絵美　北村千章　安達寛人

Ⅰ本部門の事業目的

大学職員と地域の医療機関看護職員の共同研究である地域課題研究や、上越地域の看護研究の発表の場である上越地域看護研究発表会の開催を担う。

Ⅱ活動概要

1．平成 30 年度看護研究発表会の開催

上越地域の看護職の連携を図る目的で、新潟県立看護大学看護研究交流センターと新潟県上越地域振興局健康福祉環境部の両主催で開催した。

1）看護研究発表会の準備

発表会開催にあたり、新潟県上越地域振興局健康福祉環境部が窓口となり上越地域の病院の看護師 7 名を加えた実行委員会が編成され、発表会前に 2 回（5 月 14 日と 7 月 5 日）の委員会が開催された。実行委員会では、会の企画と今後の進め方および当日の役割分担を検討した。演題の査読を新潟県立看護大学地域課題研究開発部門が担当した。

2）平成 30 年度看護研究発表会（平成 30 年 9 月 29 日（土）10:00～12：00）

テーマは「広げよう！！上越の看護」とし、新潟県立看護大学第 1 ホールで、すべてポスターセッション形式で実施した。演題は 10 施設から 11 題、参加者は 81 名であった。開会式後、ポスターを見学する時間を設け、10:40 から 3 群同時進行で発表を行った。発表後は 12 時まで発表者がポスターの前で待機し、質問や意見を受ける時間を設けた。

また当日は昼食用につくし公房によるパンの販売を行った。

当日のプログラムは以下の通りであった。

示説　第 1 群　10：40～11：20

座長　大山奈緒美（新潟労災病院）

実践報告 1-1　ベッドサイドで患者の ADL を瞬時に把握できる情報共有ツール導入の取り組み　～ADL カードを作成して～　○丸山雅子（上越地域医療センター病院）

研究 1-2　脆弱性骨折患者の骨粗鬆症治療における服薬状況に関する実態調査　～骨粗鬆症治療継続向上に向けた支援を目指して～　○保科智美（新潟労災病院）

取組紹介 1-3　バスキュラーアクセスインターベーション治療の実施場所に関する検討　○藤田幸子（新潟労災病院）

取組紹介 1-4　A 病院における院内トリアージ導入に向けた取り組み　○村松卓弥（新潟県立中央病院）

示説　第 2 群　10：40～11：20

座長　岡村ひろみ（新潟県立中央病院）

実践報告 2-1　唾液腺マッサージを併用した口腔ケアによる口腔内環境の改善　○新保美来（知命堂病院）

研究 2-2　保湿ローションを使用したスキンケアの有用性　○矢澤和恵（上越総合病院）

取組紹介 2-3　食事ケア充実に向けた取り組み　○栗原晴子（新潟県立柿崎病院）

実践報告 2-4　人口呼吸器装着難病患者の災害時の病院避難と管内市の体制整備に向けた取組　○米山佳恵（上越地域振興局健康福祉環境部）

示説　第3群　　10：40～11：20

座長　高橋恵美（上越総合病院）

実践報告 3-1 重症心身障がい児(者)病棟における療養介護員業務に対する看護師・療養介護員の意識の現状と課題　　○笹川夏美（さいがた医療センター）

その他 3-2 精神科急性期病棟における危険物とその管理に対する認識調査　～看護スタッフへのアンケートを実施して～　　○植木和則（高田西城病院）

研究 3-3 長期入院から退院を拒む患者の社会復帰に向けての一考察　　○池田和子（川室記念病院）

3）看護研究発表会のアンケート結果および実行委員会での反省・評価

（1）アンケート結果

アンケート回収数は47名で回収率58.0%であった。

初めて参加した人が 16 名（34.0%）で、発表会を何で知ったかでは「上司に勧められた」「職場の回覧」が 19 名(40.4%)と最も多く、参加動機は「共同発表者になっているから」が22名(46.8%)と最も多かった。

ポスターセッション形式での発表については「適切だった」が 41 名(87.2%)で、満足度は「満足」「やや満足」が 46 名(97.8%)あった。感想・意見として、「すぐに実践したいと思う取り組みもあり、とても参考になった」「勉強になった」「会場を分けたほうがいい」などがあげられた。また今年度初めて実施した示説については、「身近で質疑応答ができてよかった」「活動の具体的な内容を提示でき、発表しやすかった」「（同じ会場で同時進行だったため）演者の声が聞こえないことがあった」「立位で発表を聞くのは少しつらい」などの声があげられた。

（2）実行委員会反省会

発表会後に1回（10月11日）の委員会が開催された。

今年度は初めてのポスターセッションであったが、「質疑応答、意見交換がしやすいという点ではよかったのではないか」等の意見が出され、次年度もポスターセッションで実施していくこととなった。その一方、「演者の声が位置によって聞き取りにくい。他の発表の拍手などが気になることがあり、ポスターの配置など工夫が必要」「タイムキーパーのベルの音が発表中、気になる。不要ではないかと思う。」「時間配分については、改善が必要」等の意見が出され、会場の設置方法や時間配分等、次年度に向けて検討が必要であると考えられた。

なお平成31年度は10月5日（土）午前に開催することとなった。

2. 平成29年度地域課題研究発表会の開催

昨年同様、上越地域看護研究発表会と同日に開催した。平成29年度の地域課題研究発表会の演題は6題、参加者は57名であった。プログラムは以下の通りであった。

（平成 30 年 9 月 29 日（土）14:10～15:45）

＜第1群＞　　座長　　西田絵美（新潟県立看護大学）

1.「NICU におけるきょうだい面会」が家族形成にもたらす影響に対する母親の認識
新潟大学地域医療教育センター魚沼基幹病院　庄司なおみ（学内教員　高島葉子）

2. Family Centered Care による母親の変化
長岡赤十字病院　水澤香澄（学内教員　北村千章）

3. 早産児を育てる母親の NICU 退院後の不安
新潟県立中央病院　羽深朱美（学内教員　飯吉令枝・北村千章）

＜第 2 群＞　　座長　　河原畑尚美（新潟県立看護大学）
4. A 病院看護職における手洗いの実態調査
上越地域医療センター病院　龍澤由佳（学内教員　内藤みほ）
5. 施設に所属する看護職の社会人基礎力に関する研究
新潟県立中央病院　竹原則子（学内教員　岩永喜久子・岡村典子）
6. 維持透析を行う患者が透析を受け入れるために影響した要因
長岡赤十字病院　山井由香里（学内教員　小林綾子）

1）地域課題研究のアンケート結果および部門内での反省・評価

（1）アンケート結果

アンケート回収数は 27 名で回収率 47.4%であった。

初めて参加した人が 14 名（51.9%）で、参加動機は「演題・プログラムに興味があったから」が 8 名と最も多く、次いで「共同研究者になっているから」が 7 名であった。ポスターセッション形式について「適切だった」が 21 名（77.8%)、満足度は「満足」「やや満足」が 27 名(100%)あった。感想・意見として、「とても分かりやすく発表されていた」「とても勉強になった」などの意見が出された。また課題として、「マイクがあったほうがいい」「抄録が添付されているといい」などの意見が出された。

（2）部門内での反省会

「抄録が添付されているといい」との意見も参加者から出されていたが、他の学会で発表してもらうため、次年度も引き続き抄録を配布せず、ポスター形式で実施し、時間配分やポスターの配置について工夫していくこととなった。

3.　平成 30 年度地域課題研究の申請状況

7 件の地域課題研究の申請が採択された。そのうち 1 件辞退があり 6 件の研究が進行中である。

申請者	所属	学内教員	研究テーマ
松矢春奈	新潟労災病院	小林綾子	シャント作成後から血液透析導入までの患者が外来看護師にもとめること　－血液透析導入後の患者の語りを通して－
結城　真	長岡赤十字病院	髙栁智子	心臓リハビリテーション外来に通院困難な急性冠症候群患者の退院後の生活状況
小山洋恵	新潟県立中央病院	髙塚麻由	ケーススタディ研修における卒後 2 年目看護師の学びと気づき
髙橋未来	新潟医療生活協同組合木戸病院	石原千晶	整形外科病棟における術後せん妄対策の変化　－術前せん妄アセスメントツールの活用を通して－
松枝杏奈	上越総合病院	中島通子 西田絵美 永吉雅人	産後の母親の精神状態とその背景の実態調査　－エジンバラ産後うつ病質問票を用いて－
細道奈穂子	一般社団法人　新潟市医師会在宅医療推進室	平澤則子	N 市の短期入所生活介護施設における長期利用者の実態と看護援助の課題

4. 平成 31 年度地域課題研究の応募

作成した公募要領を新潟県内の保健・医療・福祉関係に郵送するとともに、新潟県立看護大学看護研究交流センターホームページに掲載し、地域課題研究公募の広報活動を行った。

公募期間中〔平成 30 年 10 月 1 日(月)～12 月 12 日(水)〕に応募が 0 件で、平成 30 年 12 月 3 日(月)～平成 31 年 1 月 18 日(金)まで再公募を行い、計 6 件の応募となった。

Ⅲ　平成 30 年度の評価と今後の課題

1）上越地域看護研究発表会、地域課題研究発表会について

地域課題研究・上越地域看護研究発表会共に参加者が昨年と比較してかなり減少したため、開催時期の見直しや各施設での参加の呼びかけが今後の課題である。できるだけ多くの人から参加してもらえるよう開催時期を 10 月上旬とし、広報活動を引き続き行っていく必要がある。

また、参加者の意見交換が活発に行えたポスターセッションの形式を次年度も継続することとする。さらに、課題となった会場やポスターの配置・時間配分の再検討や、休憩が取れるような場所の工夫を行って内容の充実を図る必要がある。

2）平成 31 年度地域課題研究の応募について

応募者が少なく、昨年度同様再公募を行うこととなったが、目標の 10 件の応募がなかった。多くの施設から応募してもらえるよう、広報活動を工夫していく必要がある。また、ここ数年 10 件の応募がない状況であり、地域課題研究のあり方についても検討していく必要があると考える。

特別研究部門

水口陽子、岩永喜久子、酒井禎子、藤田　尚、樺澤三奈子、水沢泰正（新潟県立看護大学）
山田洋子（新潟県福祉保健部　医師・看護職員確保対策課・副参事）

Ⅰ．今年度の研究の概要について

1．研究目的

近年、地方の活性化などを期待したUIターンへの注目が高まっている。今年度の特別研究部門では、「A県内にUIターンした看護職員の仕事と生活における支援ニーズ」をテーマとし、「県外からA県にUIターンした看護職員の特徴とUIターンに関連した仕事と生活における支援ニーズを明らかにする」ことを目的とした実態調査を行った。

2．研究方法

2015年4月～2018年9月に県外からA県内の病院にUIターンし、現在もA県内の病院に勤務する看護職で本研究の協力に同意が得られた者を対象に、自記式質問票（多肢選択式および自由回答）による質問紙調査を実施した。調査に先立って、新潟県立看護大学倫理委員会の審査・承認を受けて実施した。

3．結果

質問票は計176部配布し、108名より回答が得られ（回収率61.4%）、108名を分析対象とした。対象者は、平均年齢33.1歳（SD9.4）で、そのうち、出身地がA県であるUターン者は80名（74.1%）であった。A県にUIターンした理由としては「親または家族がいるため」が最も多く（51.9%）、UIターンするにあたって心配したこととして、「降雪の程度など、自然環境」（60.2%）や「ライフスタイルが変化すること」（58.3%）を挙げた者が多かった。UIターン時に重視した情報として、生活上では「生活環境の利便性」（58.3%）を挙げる者が多く、主な情報源となったのは「本県在住の家族・親戚」（46.3%）であった。また、就職に関して重視した情報として最も多かったのは「通勤時間や通勤手段」（58.3%）であり、主な情報源は「病院・施設が運営するホームページ」（72.2%）であった。UIターン時に必要だった支援に関しては、生活を始めるにあたっては「UIターン支援セミナー・相談会」（38.0%）を、就職するにあたっては「病院見学会」（54.6%）を指摘する者が多かった。現在の生活あるいは仕事に対する満足度として、「満足」「やや満足」と回答した者は、それぞれ79.7%、70.4%であり、21名（19.4%）が今後も「ずっと働きたい」と回答していた。

Ⅱ．今後の課題

UIターンした看護職の7割以上が現在の生活に満足しているが、UIターン時には降雪や生活環境の変化への不安を抱えていたことが明らかになった。本調査結果をふまえて、県外からUIターンを考える看護職が、生活や就職に必要な情報・支援が得られる方策を行政とともに検討し、今後の取り組みに活かしていくことが課題である。

Ⅲ．事務局報告

出　前　講　座

出前講座は、平成 26 年度より地域貢献活動の一環として始めた事業である。

Ⅰ　目的

・本学教員が地域に出向くことで大学を身近に感じてもらう
・本学教員の研究成果等を地域へ還元する
・地域住民への生涯学習の機会を提供する

Ⅱ　平成 30 年度　出前講座テーマ一覧

No	テーマ	分野/ 職名/講師名
1	いざというときに役立つ“子どものホームケア” [概要]　乳幼児に起こりやすい発熱、けいれん、嘔吐、下痢などの家庭での対処方法や病院の上手なかかり方についてお話しします。	小児看護学 准教授 大久保明子
2	子どもの危険！“事故予防と応急手当” [概要]　乳幼児に起こりやすい事故やけがの予防対策と、すり傷、やけど、鼻血、頭を打った、誤嚥など、日常生活で起こりやすい事故やけがの応急手当についてお話しします。	小児看護学 准教授 大久保明子
3	自分のからだ・健康・いのちについて考えてみよう！ [概要]　聴診器を使った看護体験、乳児人形を使ったおむつ交換の体験、がんの予防、喫煙や飲酒の害、小児がんの子どもの体験などから、健康やいのちについて考える授業です。	小児看護学 准教授 大久保明子
4	看護職に必要な「ケアリング」の基礎知識 [概要]　看護の本質である「ケアリング」を理解するための講義です。ケアリングの基礎理論について学習した後、看護実践に則したケアリングのあり方について議論します。改めて看護について考える機会になればと思います。	母性看護学 准教授 西田　絵美
5	看護職・介護職のための緩和ケア講座 [概要]　「緩和ケア」の基本的な考え方と、がんによる痛みなどの身体的苦痛やこころの辛さを和らげるためのケアについてお話します。	成人看護学 准教授 酒井禎子
6	災害時のトイレ、大丈夫ですか？ [概要]　心身の健康を確保する上で、安心できるトイレ環境の確保は不可欠です。災害時の避難所生活を想定したトイレ対応について、講義とワークショップで一緒に学びます。	成人看護学 准教授 山田正実
7	禁煙したい人と禁煙を応援したい人に役立つ情報と知恵 [概要]　たばこの正体を知って、禁煙の難しさや禁煙のメリットを改めて確認し合います。禁煙のコツ、禁煙を応援する方法についての講義です。	成人看護学 准教授 山田正実
8	家族の健康を考える [概要]　家族が不健康な状態に陥る要因や、不健康な状態から健康な状態に戻る過程を紹介します。また、家族が健康を取りもどすための看護学の方法にも触れます。※学校、看護職･介護職では、希望があれば理論を交えます。	地域看護学 准教授 川野英子

	テーマ	分野/ 職名/講師名
9	働き盛りの方々へ 少し生活を見直してみませんか？（食事編） [概要] 働き盛りの世代（30～50 代くらい）からの積み重ねが、脳血管疾患や糖尿病を引き起こします。減塩、適正カロリーに控える工夫など、実践可能な方法についてお伝えします。	成人看護学 講師 小林綾子
10	認知症のこと 知りたい【知りたい入門編】 [概要] 認知症の原因、予防、認知症の人と家族の思い、地域づくりに向けた基本的考え方など。認知症への対応を考えるために必要な基礎知識について参加される方の状況によって内容をアレンジします。	老年看護学 准教授 原等子
11	認知症のこと 知りたい【もっと知りたい中級編】 [概要] 認知症の症状が出る病気と症状の特徴、対応法の考え方などについて少し詳しく説明します。参加される方のご希望により内容をアレンジします。	老年看護学 准教授 原等子
12	認知症のこと 知りたい【さらに知りたい実践編】 [概要] 認知症の症状の理解と対応の方法、家族の介護負担軽減の方法、地域で支えるヒント(つどい、カフェ、みまもりなど)をご紹介します。参加される方のご希望により内容をアレンジします。	老年看護学 准教授 原等子
13	訪問看護師の 1 日 [概要] 主に、療養生活を自宅で送っている人への看護の内容を紹介します。どのような時に訪問看護サービスを使えるのかがわかる内容です。	地域看護学 准教授 川野英子

Ⅲ　平成 30 年度　出前講座実績　（開催順）

実施件数 37 件　　合計 1,150 人

	開催日	テーマ	講師名	依頼主	参加人数
1	5/21 (月)	認知症のこと知りたい 【知りたい入門編】	原等子	南本 2「みんなの茶の間」	33 人
2	6/8 (金)	いざというときに役立つ “子どものホームケア”	大久保明子	上越市立中央公民館	23 人
3	7/1 (日)	認知症のこと知りたい 【知りたい入門編】	原等子	上越市老人クラブ連合会仲五長寿会	28 人
4	7/4 (水)	子どもの危険！ “事故予防と応急手当”	大久保明子	真行寺幼稚園	17 人
5	7/7 (土)	自分のからだ・いのち・健康について考えてみよう！	大久保明子	上越市立浦川原中学校	53 人
6	7/10 (火)	働き盛りの方々へ　少し生活を見直してみませんか？(食事編)	小林綾子	JA えちご上越助けあい組織「ほほえみの会」	22 人
7	8/6 (月)	認知症のこと知りたい 【知りたい入門編】	原等子	御殿山老人会	37 人
8	8/7 (火)	家族の健康を考える	川野英子	北本町 1 丁目老人クラブ（ときわ会）	22 人
9	8/22 (水)	認知症のこと知りたい 【知りたい入門編】	原等子	子安、とよばいきいきサロン	35 人
10	8/22 (水)	認知症のこと知りたい 【知りたい入門編】	原等子	妙高市教育委員会 生涯学習課	13 人
11	8/22 (水)	看護職・介護職のための緩和ケア講座	酒井禎子	特別養護老人ホーム さくら聖母の園	40 人
12	8/23 (木)	家族の健康を考える	川野英子	国府 2 丁目町内会	31 人
13	8/24 (金)	働き盛りの方々へ　少し生活を見直してみませんか？(食事編)	小林綾子	くびきのイキイキカレッジ	12 人
14	8/29 (水)	認知症のこと知りたい 【知りたい入門編】	原等子	医療法人知命堂病院看護部	57 人
15	8/29 (水)	家族の健康を考える	川野英子	くびきのイキイキカレッジ	12 人
16	9/3 (月)	看護職に必要な「ケアリング」の基礎知識	西田絵美	新潟県立中央病院	33 人
17	9/6 (木)	子どもの危険！ “事故予防と応急手当”	大久保明子	妙高市立よつばこども園	70 人
18	9/26 (水)	認知症のこと知りたい 【もっと知りたい中級編】	原等子	医療法人知命堂病院看護部	46 人

	開催日	テーマ	講師名	依頼主	参加人数
19	9/26 (水)	災害時のトイレ、大丈夫ですか？	山田正実	妙高市農協婦人部「ふきのとう」	10 人
20	9/28 (金)	災害時にいのちと健康を守るために知っておきたいこと	山田正実	新潟県砂利砕石協会 上越支部	21 人
21	10/1 (月)	いざというときに役立つ “子どものホームケア”	大久保明子	真行寺幼稚園	20 人
22	10/11 (木)	認知症のこと知りたい 【もっと知りたい中級編】	原等子	妙高市教育委員会 生涯学習課	20 人
23	10/20 (土)	家族の健康を考える	川野英子	株式会社澤井商事 「澤井商事協力会社労働災害互助会」	57 人
24	10/31 (水)	働き盛りの方々へ　少し生活を見直してみませんか？(食事編)	小林綾子	糸魚川地区老人クラブ連合会	80 人
25	11/8 (木)	訪問看護師の 1 日	川野英子	上越市立柿崎地区公民館	22 人
26	11/9 (金)	いざというときに役立つ “子どものホームケア”	大久保明子	社会福祉法人上越妙高福祉会下門前保育園	13 人
27	11/11 (日)	災害時のトイレ、大丈夫ですか？	山田正実	西ヶ窪浜町内会	80 人
28	11/14 (水)	家族の健康を考える	川野英子	妙高市農協婦人部「ふきのとう」	9 人
29	11/26 (月)	認知症のこと知りたい 【知りたい入門編】	原等子	糸魚川市役所　健康増進課	17 人
30	12/14 (金)	自分のからだ・いのち・健康について考えてみよう！	大久保明子	上越市立吉川中学校	33 人
31	12/21 (金)	認知症のこと知りたい 【知りたい入門編】	原等子	上越社会福祉協議会 板倉支所	14 人
32	1/25 (金)	認知症のこと知りたい 【もっと知りたい中級編】	原等子	上越社会福祉協議会 板倉支所	24 人
33	2/15 (金)	子どもの危険！ “事故予防と応急手当”	大久保明子	上越市教育委員会 名立区分室	9 人
34	2/17 (日)	認知症のこと知りたい 【もっと知りたい中級編】	原等子	糸魚川市役所　健康増進課	50 人
35	2/18 (月)	認知症のこと知りたい 【さらに知りたい実践編】	原等子	第 3 地区民生委員児童委員協議会	22 人
36	2/22 (金)	いざというときに役立つ “子どものホームケア”	大久保明子	上越市教育委員会事務局	55 人
37	3/8 (金)	働き盛りの方々へ　少し生活を見直してみませんか？(食事編)	小林綾子	妙高市立総合支援学校	10 人

資料_1　平成 30 年度　出前講座アンケート結果　(依頼主回答より要約)

実施件数：37 件(依頼件数：38 件)　参加者数：1,154 人

テーマ／講師名	1.講座の内容について
① **いざというときに役立つ** **“子どものホームケア”** 小児看護学 准教授　大久保明子	・家庭での基本的な対処の仕方をわかりやすく話していただきよかったです。また、肌育肌ケアについて家庭で行っている保護者の方には再確認ができ、初めて聞く方にはとても参考になり良かったです。
② **子どもの危険！“事故予防と応急手当”** 小児看護学 准教授　大久保明子	・身近に起きるケガや病気の時の応急手当ての仕方について、これまで良いと思ってしていた方法と異なる場合もあり、正しい処置の方法を知ることができて参考になりました。 ・幼稚園の職員間でも内容を確認させていただき、今後の保育に役立てていきたいと思います。
③ **自分のからだ・健康・いのちについて** **考えてみよう！** 小児看護学 准教授　大久保明子	・聴診器で心音を聴いたり、脈拍を計ったりすることを通して、自他の命を実感的に捉えることができました。 ・自分が看護師になりたくて、どんなふうに勉強したり、どういう仕事をするのか知れてよかった。＜生徒感想＞ ・普段聞くことのできない看護やいのちのお話を聞けて良かったです。子供たちも進路を考え始める時期なので、看護などに興味を持てたのではないかと思います。ふだん命について子供と話し、考えることが少ないのですごく貴重な時間になりました。＜保護者感想＞
④ **看護職に必要な「ケアリング」の** **基礎知識** 母性看護学 助産学 准教授　西田絵美	・卒後 5～6 年目のスタッフが「自己の看護を振り返る」研修導入として有効でした。看護師は患者にとってどのような存在なのか考える機会となりました。 今後の看護実践の場面で相手（患者や家族）と向き合うことの根底を教えていただき、講義後のグループワークでは、「看護の仕事を通し自己の成長を実感している」等の意見もあり、私も嬉しく感じました。
⑤ **看護職・介護職のための緩和ケア講座** 成人看護学 准教授　酒井禎子	・看取り看護を必要とする利用者の方への介護の接し方又家族の方への接し方が非常に勉強になった。 ・自分の家族や自分自身の今後の在り方などを考える良い機会になった。状態変化のポイントが分かりやすく、今後に活かせると思った。
⑥ **災害時のトイレ、大丈夫ですか？** 成人看護学 准教授　山田正実	・災害の多い近年、なかなか準備のひとつとして考えることがなく、目からうろこの感を覚えました。身の安全と食料の準備と同様に大切であることを実感しました。具体的例を見せていただけたことも大変良かったです。
⑦ **禁煙したい人と禁煙を応援したい人に** **役立つ情報と知恵** 成人看護学 准教授　山田正実	
⑧ **家族の健康を考える** 地域看護学 准教授　川野英子	・昨今あふれる健康情報の見極め方についてもお話ししていただけ、大変勉強になりました。 ・今までは「健康」という言葉をイメージすると、家族構成する個人の「体の健康」をイメージしていました。今回の講座を拝聴し家族という集合体としての健全性（健康）も家族個々の健康に深く関わっていることを改めて認識させられ、「家族の健康」の見方がかわりました。
⑨ **働き盛りの方々へ　少し生活を** **見直してみませんか?(食事編)** 成人看護学 講師　小林綾子	・塩分濃度測定の体験を取り入れた講座は、参加者から「良かった」「楽しかった」等の感想をいただき、大変好評でした。 ・今後の生活や食事作りにも役立てることができる内容で、身近に感じることができました。
⑩ **認知症のこと　知りたい** **【知りたい入門編】** 老年看護学 准教授　原等子	・認知症の種類とその特徴を教えてくださり、その予防法については、生活習慣を改善するためのタンパク質の種類を「まごはやさしいよ」とユーモアに溢れた表現をされ、先生が一座の人たちの中に入っていく姿勢・態度・人柄が今回の出前講座の大きな魅力だったと思います。 ・認知症の本人のみならず、家族も苦労している実態が理解できた。認知症はかまわないでおくと進行する病であることも理解できた。一番ためになったのは、予防法を理解できたことだ。 ・認知症になっての恐れが少しなくなり安堵感をもてた。

テーマ／講師名	1.講座の内容について
⑪ **認知症のこと　知りたい** **【もっと知りたい中級編】** 老年看護学 准教授　原等子	・認知症治療法で、非薬物療法にはいろいろなことがあり、周囲の対応、環境調整を行えば多くの症状が抑えられることがわかった。しかし、家族の苦労はとても大きい。 ・「認知症は病人を２人つくる。」この言葉に驚いた。本人と家族の関係に大きな課題が出てくる。せつないね。
⑫ **認知症のこと　知りたい** **【さらに知りたい実践編】** 老年看護学 准教授　原等子	
⑬ **訪問看護師の１日** 地域看護学 准教授　川野英子	・以前夫が訪問看護を受けていましたので、現在のことを聞けて良かった。話が丁寧で聞きやすく、参考になった。 ・介護用品や病気によって装着するものなどの見本を見せていただき、より具体的で勉強になった。
災害時にいのちと健康を守るために知っておきたいこと 成人看護学 准教授　山田正実	最近、風水害・地震等の自然災害の爪痕をみると、他人ごとでないと思い、災害に対しての知識を得ることができ非常に意義ある内容でした。 健康状態と予防、感染予防、口腔内のケアー、唾液腺マッサージなどたくさん知ることができました。 結びに「みんなで協力し合うこと」の大切さを痛感いたしました。 ２年前の講演のタイトルをお願いいたしましたが、快くお引き受けくださいまして誠にありがとうございました。

2. 出前講座についてのご意見・ご感想など、お気づきの点をご自由にお書きください。

・ボランティア活動の多い昨今、この出前講座は日頃できない話が聞けたり、実のある体験学習ができます。ありがたいことです。
・とても良い講座でした。ありがとうございました。
また、親子活動などで計画できたらと考えています。
さらに、親子で話をしたり、考えたり、活動できるとより良いものになると感じました。
・学問的、理論的見地からお話いただけるので、参加者は深い学びができます。
座学中心の講義にならざるをえないと思いますが、作業や演習を取り入れていただくとよいかと思います。
旅費のみで来てくださるので、本当にありがたいです。
・講師の実体験を含めた講義内容（指導）であり、受講生にとって理解しやすい授業であった。
・講師の方と打ち合わせ時などの連絡がメールでのやりとりだったが、とても行いやすかったので良かった。
講師の方の話し方がとても上手く、聞きやすかった。
講座の資料はとても見やすく分かりやすかった。
・安心して講演を依頼し打合せを行うことが出来ました。また、事務局の方々、先生の対応と気配りに感謝いたしております。ありがとうございました。
今度で 6 度目になりました。出前講座に多種、多様野テーマがあり、今後も利用させていただきたいと思います。・連続講座として位置づけ学びを深めることができ、受講生にも学習をした満足感ができた。
高齢者の受講生が多く、今後の生活に注意することができる。
・身近なテーマを実際に現場で携わっている方が講師とあり、具体的でわかりやすい話が聞けるため大変良いと思いました。これからも広くたくさんの方々から知ってもらうため、利用させていただきます。ありがとうございました。
・ずっと話してばかりではなく、飽きてきたころ実技も入れて、さすが大学で教えている人だと感心いたしました。
・医療の専門的な面からの話をわかりやすく講義していただき、ありがとうございました。保護者からも、とても良かったという声が聞かれました。
・出前講座では、講師料の負担がないことが、小規模校のためとても助かります。また、講座を通して、健康教育の機会ととらえ、生涯に渡り、自己健康管理できる生徒の育成を目指しています。
今後は、がん教育を行っていく上で、外部講師として、がん患者を支える周りのかかわり方、がん患者の理解と共生等についても講座を設けていただけるとありがたいです。
・毎回お世話になっております。身近な地域の大学の先生のお話ということで好評です。ぜひ地域の情報なども提供いただけると、より関心を持ってもらえるのではないかと思います。

第 4 回 茶 話 会

卒業生への支援活動として、昨年度に引き続き、平成 30 年度に第 4 回茶話会を開催した。この会は、卒業生同士の近況報告や各職場の情報交換、本学教員と自由に語り合う場とし、体験を共有することで、モチベーションを高め今後の看護活動に生かすことを目指し企画した。桜蓮祭と同日の 11 月 4 日（日）14 時から 1 時間程度で行い、卒後 1 年目の卒業生 12 名の方が集まった。県内に勤務の卒業生だけでなく、県外からの参加もあった。テーブルを囲み、お茶を飲みながら、就職して大変だったこと、頑張っていることなどついて、自由に語り合った。「同期の人や先生方と会えて良かった」、「皆が悩みながらも頑張っているという話を聞いて、自分も頑張ろうと思った」、「皆が様々な場所で頑張っていることを知り、とても刺激になった」など、参加して良かったとの意見が多かった。さらに、卒業生から在学生へ「今は大変なこともあると思うが、一日一日を大切にして楽しんでください」「悔いの残らないように過ごしてください。応援しています」などのあたたかいメッセージがあり、メッセージカードを在学生が閲覧できる場所に掲示した。

資料_茶話会アンケート結果

第 4 回　茶話会アンケート

H30.11.4(日)開催

参加者　卒業生 12 名（卒後 1 年 10 名、卒後 2 年 0 名、その他 2 名）
（事前申し込み 5 名、当日欠席 1 名、当日参加 5 名、同窓会 2 名）
教員 5 名

回収数　9 枚

✧ 参加して
- 参加して良かった…8 名
  久しぶりに会う子もいて、話が聞けて良かった。
- つまらなかった…1 名

✧ 開催時期
- 桜蓮祭と同日が良い…7 名　　5 月頃が良い…2 名

✧ 茶話会の方法
- 自由な席で良かった…9 名　　席は決められていた方が良かった…0 名
- テーマがあり話しやすかった…2 名　　テーマはなくても良い…5 名
  無回答…2 名

✧ 茶話会の継続（後輩のため）について
- 是非継続してほしい…0 名　できれば継続してほしい…4 名
  どちらでも良い…5 名

✧ 卒業後、大学に期待することがありましたらご記入ください。
- 卒後 1 年生、2 年生の交流会
- 個人的研究の支援

会合に対する助成等

卒業生への支援活動の一環として、平成 28 年度に「卒業生の小規模な会合に対する助成等に関するガイドライン」を作成し、平成 29 年度 4 月から実施している。

このことについては、本センターホームページ内に平成 29 年 3 月に開設された「卒業生支援ポータル」において公開している。

Ⅰ　事業目的

本学の学部を卒業した者(以下、卒業生という)が、自主的に複数人参集し、本学の施設内において、本学教員及び卒業生で情報交換や懇親を深めることを目的とした小規模な会合を対象に、その会合の準備及び運営に対して支援を行う。但し、本学の後援会または同窓会による事業は含まない。また、短大卒業生は対象外とする。

Ⅱ　支援の主な内容

1. 会場等の提供

本学の施設・設備を、大学運営に支障のない範囲で、無償で利用できる。

2. 経費の助成等

1) 当日配付する資料等の印刷：本学の複写機を利用して印刷するものに限る。

2) 茶菓代：当日提供するものに限り、1 人あたり 750 円または 1 会合あたり 20,000 円までのどちらか少額を上限とする。なお、購入する茶菓は、本センターを通じて業者に発注し、業者から本センターへ直接請求が行われ、本センターが支払うことができる場合に限る。

3. 教員との連絡調整

必要に応じてセンター職員が関係教員との連絡、調整を仲介する。

Ⅲ　実績

目的・開催概要	開催日時	参加者	助成額
病院就職説明会に参加した元老年看護学ゼミ生、卒業生を囲み、現況を報告し合い、大学での出来事を思い出しつつ、明日への看護の活力にしてもらう	平成 31 年 2 月 9 日(土) 15：30～	卒 業 生 7 名 本学教員 3 名	4,863 円
	合　計	卒 業 生 7 名 本学教員 3 名	4,863 円

Ⅳ．平成 30 年度地域課題研究助成の報告

平成 30 年度地域課題研究助成の報告

１．研究課題

慢性腎臓病保存期療養生活での患者の学び

–血液透析導入後の患者の語りを通して–

２．研究代表者及び所属

松矢春奈　新潟労災病院

３．研究メンバー

松矢春奈[1)]　佐藤祐子[1)]　金井司[1)]　高橋久美子[1)]　小林綾子[2)]

1）新潟労災病院　2）新潟県立看護大学

４．学内責任者

新潟県立看護大学　小林綾子

５．研究費執行額

	旅費	報償費	役務費	需用費	合計
執行額(円)	28,280	0	46,055	25,665	100,000

６．研究の概要

慢性腎臓病患者は、保存期を経て透析導入を迎えていくが、この保存期に必要な情報や知識を得て学ぶことは、血液透析導入後の生活にスムーズに移行するために必要である。本研究は、慢病腎臓病患者が保存期療養生活中に学んだことと、保存期に得ておきたかった知識・情報について明らかにすることを目的に行った。対象は、同意が得られた透析析導入後３か月経過した患者 6 名であった。研究方法は、質的記述的研究で、半構成的面接により得られたデータを逐語録にし、コード化、カテゴリー化した。所属施設の倫理審査委員会の審査を得たうえで行った。

結果、慢性腎臓病患者が保存期療養生活中に学んだことは【末期腎不全の症状】【腎臓病の食事療法】【食事療法を日常生活に取り込む方法】【薬の副作用と服薬方法】【血液シャントを使った透析治療とその効果】【シャントの知識】【透析室の様子や過ごし方】【患者会があること】であった。また、保存期に得ておきたかった知識・情報は、【末期腎不全の病態と症状に合わせた過ごし方】【シャント造設術を経験していく過程で必要となったシャントの知識】【患者により異なる透析治療後の影響】【社会保障制度の利用】であった。

慢性腎臓病患者は保存期療養生活中に、病気や治療、食事に関する様々な知識・情報を得ており、透析療法が近づき準備が始まってくるとさらに具体的な知識・情報を必要としていることが示唆された。

７．　今後の学会発表の予定

・有（新潟県看護協会看護学会）

平成 30 年度地域課題研究助成の報告

１．研究課題名

心臓リハビリテーション外来に通院していない急性冠症候群患者の退院後の生活状況とその要因

２．研究代表者及び所属

長岡赤十字病院　結城真

３．研究メンバー

結城真 1)　丸山和真 1)　八木美穂 1)　下村結花里 1)　高柳智子 2)

1）長岡赤十字病院　2）新潟県立看護大学

４．学内責任者

新潟県立看護大学　高柳智子

５．研究経費執行額

	旅費	報償費	役務費	需用費	合計
執行額(円)	21,870	0	49,526	0	71,396

６．研究の概要

本研究は、心リハプログラムが入院中のみに留まった急性冠症候群患者の退院後の生活状況とその要因を明らかにすることを目的とした。

緊急経皮的冠動脈形成術を受け、退院後に心リハ外来へ通院していない患者 5 名を対象に、術後 6～8 ヶ月のフォローアップカテーテル入院時に半構造的インタビューを実施し、質的に分析した。

生活状況カテゴリーは、【退院後も継続出来ている事】、【退院後に出来るようになった事】、【退院後に出来なくなった事】、【退院後も出来ない事】の 4 つに集約され、それらへの影響要因として、『人的環境』、『物的環境』、『生活環境』、『外発的経験』、『内発的経験』、『健康行動継続への葛藤』が抽出された。患者が退院後もセルフケアの継続や行動変容（減塩、運動の継続、セルフモニタリングの継続など）が出来ている影響要因には、医師をはじめ理学療法士や管理栄養士からの専門的な介入の効果が目立ち、多職種介入で行う心リハプログラムの有効性を再確認出来た。一方で、退院してから、セルフケアに困難を実感した患者もおり、生活指導内容の再考と患者を継続フォローできる体制の必要性が示唆された。

７．今後の学会発表の予定

・有（2019 年度　日本心臓リハビリテーション学会　第 4 回関東甲信越支部地方会）

平成 30 年度地域課題研究助成の報告

１．研究課題

ケーススタディ研修における卒後 2 年目看護師の学びと気づき

２．研究代表者及び所属

小山洋恵　新潟県立中央病院

３．研究メンバー

小山洋恵[1)]　田中寛美[1)]　廣田沙綾香[1)]　岡田美幸[1)]　数見典代[1)]　小林綾子[2)]
髙塚麻由[2)]

1）新潟県立中央病院　2）新潟県立看護大学

４．学内責任者

新潟県立看護大学　髙塚麻由

５．研究費執行額

	旅費	報償費	役務費	需用費	合計
執行額(円)	0	0	13,568	86,307	99,875

６．研究の概要

本研究は、卒後 2 年目看護師が新人看護職研修で取り組むケーススタディ研修において、どのような学びや気づきを得ているのかを明らかにすることを目的とした調査研究である。研究の実施に際しては、新潟県立中央病院倫理審査委員会にて倫理審査を受け承認を得た（承認番号：１８１３）。研究方法は、A 病院において卒後２年目研修を受講した卒後３年目看護師 13 人に研究協力を依頼、このうち研究への協力の得られた 3 人に半構造化面接を行った。面接は 1 人につき概ね 30 分程度で実施し、IC レコーダーで録音した音声データを逐語録としてデータを作成した。データ分析は、メンバー間で逐語録を繰り返し熟読後、看護師の学びや気づきを分析単位としながら内容分析の手法を用いて分析しカテゴリー化した。その結果、学びや気づきとして 6 カテゴリーを抽出した。ケースレポートをきっかけに【自己の学習課題を明確にする】から学びは始まり、ケースへの看護実践をとおし【一歩踏み込んで患者のニーズをとらえる】【患者の全体像をとらえる難しさ】を実感するとともに、【知識や経験の不足をチームで補う】【個々にあわせた看護過程の重要性を実感する】学びを得ていた。また、看護実践を文章化し振り返ることは【自己の看護を客観的にとらえる】こととなり、ケーススタディ研修は学びと気づきを得る学習機会となっていた。今後は、今回見出した結果に基づき考察を深め結論を導き出す予定である。

７．今後の学会発表の予定

・有（第 50 回日本看護学会～看護管理（平成 31 年 10 月 23～24 日開催）　　）

平成 30 年度地域課題研究助成の報告

１．研究課題名

整形外科病棟における術前せん妄アセスメントツールの活用

２．研究代表者及び所属

髙橋未来　新潟医療生活協同組合　木戸病院

３．研究メンバー

髙橋未来[1)]　千葉美弥[1)]　岩村江里奈[1)]　石原千晶[2)]

１）新潟医療生活協同組合　木戸病院　２）新潟県立看護大学

４．学内責任者

新潟県立看護大学　石原千晶

５．研究経費執行額

	旅費	報償費	役務費	需用費	合計
執行額（円）	40,000	0	680	39,058	79,738

６．研究の概要

本研究は、高齢の整形外科手術患者に対し、作成したアセスメントツールを用いて術前からせん妄発症リスクをアセスメントし、せん妄対策が実施できることを目的として取り組んだ。せん妄対策アセスメントツールの作成は、Lipowski の分類によるせん妄の準備因子、直接因子、誘発因子を基に、日本で開発された、せん妄スクリーニングツール（DST）と先行研究結果から導き出された、せん妄発症要因を参考に作成した。その後、研究対象者である看護師 15 名に次の①～④の手順を踏んで調査した。①アセスメントツール導入前の事前アンケートの実施、②術後せん妄の学習会開催、③高齢の整形外科手術患者に対し、入院日から術後 3 日目まで作成した、せん妄アセスメントツール「術後せん妄発症リスク因子表」を使った調査の実施、④アセスメントツール導入後の事後アンケートの実施。

事前アンケート結果から看護師のせん妄に関する認識は低く、「よく知っている」はおらず「ある程度知っている」が半数以下であった。しかし、せん妄学習会後の認識は上がり、90%以上がせん妄の発症要因が把握できるようになった。術後せん妄発症リスク因子表の使用はチェック漏れがあるなど継続困難な部分もみられたが、使用患者 16 名中、5 名にせん妄予防対策がとられた。事後アンケートから「術前よりせん妄対策をとっていくことが必要だと思った」などの意見もあり、術後せん妄発症リスク因子表の使用は効果的だったと考える。

７．今後の学会発表予定

・有（日本看護研究学会）

平成 30 年度地域課題研究助成の報告

１．研究課題名

産後の母親の精神状態とその背景の実態調査～エジンバラ産後うつ病質問票を用いて～

２．研究代表者及び所属

松枝杏奈　　上越総合病院

３．研究メンバー

松枝杏奈[1)]　中村久美子[1)]　相羽綾子[1)]　横尾由美子[1)]　渡邊史佳[1)]　廣瀬洋美[1)]　丸田直美[1)]
中島通子[2)]　西田絵美[2)]　永吉雅人[2)]

1）上越総合病院　　2）新潟県立看護大学

４．学内責任者

新潟県立看護大学　　中島通子

５．研究経費執行額

	旅費	報償費	役務費	需用費	合計
執行額（円）	0	0	12,300	82,354	94,654

６．研究の概要

本研究は産後 5 日目、産後 2 週間目、1 ヵ月健診時の褥婦にエジンバラ産後うつ病質問票（以下 EPDS）を実施して産後の精神状態とその背景を把握し、A 病棟での EPDS の導入及び支援方法の検討を目的とした。調査方法は郵送法及び留め置き法による自記式質問紙調査である。分析方法は EPDS 得点及び基礎情報の統計処理と t 検定($p<0.05$)を用いた。倫理的配慮は益・不利益の有無、情報は研究以外に使用しない、学会誌及び学会等に発表する際は個人特定できないよう、符号化し連結不可能な処理をすることを説明し同意を得た。また、病院の倫理委員会の承認を得た。結果、対象者は産後 5 日目 127 名（有効回答率 96.9%）、産後 2 週間目 101 名(79.5%)、1 ヵ月健診時 125 名(98.4%)となった。全体の EPDS の平均点は産後 5 日目 5.54 点、産後 2 週間目 5.49 点、1 ヵ月健診時 3.89 点と産後 5 日目が最も高かった。産後うつ病のハイリスク群である EPDS9 点以上の褥婦の割合は産後 5 日目 23.6%、産後 2 週間目 26.7%、1 ヵ月健診時 16.8%と産後 2 週間目が最も多かった。EPDS 得点と関連する背景因子として産後 5 日目は分娩回数($p=0.0004$)、経済的不安($p=0.0075$)、栄養方法($p=0.0062$)、妊娠時の気持ち($p=0.0329$)であった。産後 2 週間目は分娩回数($p=0.0043$)、経済的不安($p=0.0162$)、精神科受診歴($p=0.0447$)であった。産後 1 ヵ月時は分娩回数($p=0.0059$)、経済的不安($p=0.0164$)であった。今後は妊娠初期からの EPDS 導入とそれを活用した継続支援、地域との情報共有・連携、適切な支援体制構築が課題となった。

７．今後の学会発表の予定

日本母性衛生学会

平成 30 年度地域課題研究助成の報告

１．研究課題名

短期入所施設の看護師が長期利用者のケアにおいて認識する課題

２．研究代表者及び所属

細道奈穂子

３．研究メンバー

細道奈穂子 [1)]

1）一般社団法人新潟市医師会

４．学内責任者

新潟県立看護大学　平澤則子

５．研究経費執行額

	旅費	報償費	役務費	需用費	合計
執行額(円)	37,460	0	28,445	8,820	74,725

６．研究の概要

A 市における短期入所長期利用の実態と、それに関連して短期入所固有の状況のあるなか、看護職が課題として認識していることを明らかにすることを目的とした。

短期入所 162 施設の看護職に対し、2018 年 10～12 月の 3 ヶ月間に 31 日間以上連続して利用した人の状況、健康管理、連携、施設入所者への看護と比較して課題と感じていることについて、無記名自記式質問紙調査を行い、単純集計ならびに記述回答についてはカテゴリー化した。

施設からの回答数は 46（回答率 28.4%）。31 日間以上連続利用した人がいる施設は 36 ヶ所、利用者は 387 人だった。

詳細が記載されていた 254 人は要介護 3 が最も多く、要支援も含まれていた。利用理由は、「入所待機」が最も多く、「2 年以上の継続利用」が 2 割あった。病院～直行での利用が 4 割弱。「褥瘡の処置」など医療的ケアの必要な人は 2 割弱であった。

「ADL 低下予防」「低栄養予防」「転倒予防」「オムツ外し」「スキンケア・褥瘡管理」「口腔ケア」の全項目において、“積極的に取り組んでいる”という回答は少なかった。主治医やケアマネと直接やりとりができない状況もある。サービス担当者会議への参加も 2 割であった。

自由記述から、[ご家族の協力が必須][主治医から直接指示をもらえない影響][方向性が不明瞭][本人の精神的な落ち込み]など 10 個のカテゴリーに分けられた。

短期入所を担当する看護職は、早期治療への遅れや機能低下を危惧していた。

７．今後の学会発表の予定

・有（地域看護学会）

平成 30 年度
公立大学法人新潟県立看護大学
看護研究交流センター　活動報告書

平成 31 年 4 月　発刊

発行　公立大学法人 新潟県立看護大学 看護研究交流センター
〒943-0147　新潟県上越市新南町 240 番地
TEL・FAX　025-526-2822